



こころを育む総合フォーラム 全国運動

2011年度 活動のご案内 &

子どもたちの“こころを育む活動”

受賞事例

「こころを育む総合フォーラム 全国運動」は、
下記企業からのご賛同・ご支援をいただき
活動しております。

東海旅客鉄道株式会社
トヨタ自動車株式会社
パナソニック株式会社
株式会社読売新聞東京本社

こころを育む総合フォーラム 全国運動に関するお問い合わせ



公益財団法人 パナソニック教育財団内
こころを育む総合フォーラム
全国運動 事務局

〒105-0001
東京都港区虎ノ門1-1-10 第2ローレルビル 6階
TEL 03-5521-6100 FAX 03-5521-6200
URL <http://www.kokoro-forum.jp/>

●「こころを育む総合フォーラム 全国運動」は文部科学省の後援を受けています。

「こころを育む総合フォーラム」より

「こころを育む総合フォーラム」は、昨今のさまざまな社会事象から浮かび上がる日本人の心の荒廃に危機感を抱き、はどめをかけたいとの思いを共有する有識者16 名が集い、2005 年4 月に設立されました。設立以来、家庭・学校・地域・企業などの視点から討議を重ね、07 年に提言書をまとめ、発表しました。また、シンポジウムおよび全国キャラバンの講演をまとめた『いま、こころを育むとは』(小学館新書)を09 年に発刊いたしました。

この提言を具体化するきっかけづくりとして、全国各地で実践されている、こどもたちの「こころを育む」活動を募集し、優れた事例を支援し紹介する全国運動を08 年度より展開しています。第四回となる11 年度は、個人の部から2 名、団体の部から15 団体が選出され、もっとも優れた活動として、石樽の里コミュニティが全国大賞に選ばれました。

本書では、第四回受賞の全17 事例をご紹介しますと共に、過去三回に受賞された方々の事例についてあらためてご紹介いたします。シンポジウムや受賞者交流会などを通じて受賞者の方々による交流も進み、「こころを育む」活動の輪が広がっています。本書が、受賞団体・個人をはじめ活動を続けている方々へのエールとなり、優れた活動を全国に広げる一助となることを願いつつ、これからも全国運動を展開してまいります。

■こころを育む総合フォーラム 有識者メンバー (2012年3月31日現在) (敬称略・50音順)

安西祐一郎(日本学術振興会 理事長)	永井多恵子(元 日本放送協会 副会長)
石井 幹子(石井幹子デザイン事務所 主宰)	中村 邦夫(パナソニック 会長)
葛西 敬之(東海旅客鉄道 会長)	中村 桂子(J T 生命誌研究館 館長)
金澤 一郎(国際医療福祉大学大学院 院長)	野依 良治(理化学研究所 理事長)
佐々木 毅(学習院大学 教授)	本田 和子(お茶の水女子大学 名誉教授)
滝鼻 卓雄(前 読売新聞東京本社 相談役)	三村 明夫(新日本製鐵 会長)
張 富士夫(トヨタ自動車 会長)	山折 哲雄(国際日本文化研究センター 名誉教授)
遠山 敦子(パナソニック教育財団 理事長)	鷲田 清一(大谷大学 教授)

C O N T E N T S 目次

■活動のご案内

「こころを育む総合フォーラム」からの “七つの問い”	4
-------------------------------	---

「こころを育む総合フォーラム 全国運動」とは?	6
-------------------------	---

主な活動

・有識者会議	8
・全国キャラバン	8
・シンポジウム	9
・活動の経緯	10

■受賞事例紹介

2011年度受賞事例【団体の部】

●全国大賞 子どもは地域の宝 地域全体で子どもを守り育てる 石樽の里コミュニティ(三重県)	12
●ブロック大賞(北海道・東北ブロック) 絆プロジェクト 福島県田村郡 三春町立沢石中学校(福島県)	16
●ブロック大賞(関東ブロック) 対話型ワークショップ「カタリ場」 特定非営利活動法人 NPOカタリバ(東京都)	18
●ブロック大賞(中部ブロック) 山代ファミリーサポートセンター施設事業 特定非営利活動法人 阿羅漢(石川県)	20
●ブロック大賞(中国・四国ブロック) 本と地域が支える子どもの文化 特定非営利活動法人 高知こどもの図書館(高知県)	22
●ブロック大賞(九州・沖縄ブロック) 子どものまるごと体験フェスティバル しんぐう・こが・ふくつ・むなかた アンビネット協議会(福岡県)	24
●奨励賞 こどもと大人がつくる日本一小さな 遊〜遊〜村・村づくり事業 ばん・ばん・ばんぶきん(北海道)	26
●奨励賞 公園巡回型乳幼児期のたまり場づくり KOPA(Kids,Outdoor,Play Activity)(東京都)	27
●奨励賞 キャラバン隊「空」公演 キャラバン隊「空」(千葉県)	28
●奨励賞 子ども若者編集部 特定非営利活動法人 全国不登校新聞社(東京都)	29
●奨励賞 地域の素晴らしさをもっと知ってもらうために 特定非営利活動法人 野外教育学修センター 魚沼伝習館(新潟県)	30
●奨励賞 商店街の寺子屋 「商店街の寺子屋」運営委員会(兵庫県)	31
●奨励賞 入院中の子どもたちに「こども時間」を届けるクリニックラウン 特定非営利活動法人 日本クリニックラウン協会(大阪府)	32
●奨励賞 山里海の四季、生活・産業を体験しよう 都会と田舎を結ぶ食育ネット(愛媛県)	33
●奨励賞 地域のお産は地域が守る! 地域のボランティアが活躍するお産施設 一般社団法人 日本バースセンター協会 九州バースセンター姥が懐(福岡県)	34

2011年度受賞事例【個人の部】

●個人賞 世界に一つだけのバリアフリーな工作キットで 子どもたちのこころを育てる活動 矢野 未友木&百花(兵庫県)	35
●奨励賞 絵本で拓く道徳授業 中嶋 真理(岩手県)	36
■ 2010年度受賞者活動報告	37
■ 2009年度受賞者一覧	42
■ 2008年度受賞者一覧	43

子どもたちのために できること

「こころを育む総合フォーラム」からの 〝七つの問い〟

「こころを育む総合フォーラム」では、子どもたちのこころを育む活動のヒントとなる“七つの問い”を呼び掛けています。

家庭・学校・地域・企業など、子どもたちを取り巻くすべての場所で、きっとできることがあるのではないのでしょうか。

🏠 家庭 ✨

- 子育てはみんなの手で
- 大事にされているという体験、それが信頼の基礎
- 子育てにもっと高い社会的評価を
- 母親を孤立させないための仕組みを
- 子育てを楽しみと感じられる環境を

●家庭での育みを見なおすための 七つの問い

- 1 幼い子どもに、親(保護者)は、たっぷり愛情をそそいでいるだろうか？
- 2 子どものよい点をしっかり誉めて、自信をもたせているだろうか？
- 3 子育ての不安、ストレスへの対応は、家族、親戚、近隣、保育所などでともに担われているだろうか？
- 4 子育ては苦労もあるが、幼いいのちを育む喜びと楽しみがあるということが、きちんと認識されているだろうか？
- 5 親(保護者)の姿勢が、子どものこころを創っているという自覚があるだろうか？
- 6 家庭で、子どものころからよい生活習慣を身につけさせているだろうか？
- 7 子どもは社会のみんなが育てるもの、家庭はそのなかでもっとも重要なものだとして認識しているだろうか？

👥 地域 ✨

- 子どもが自然に育つ場
- みんなで協同して事にあたる力を
- 地域社会の新たな役割
- 子どもの視点に立ったまちづくりを

●地域社会における育みを考えるための 七つの問い

- 1 地域のだれもが、子どものこころを育むという姿勢で、子どもに接しているだろうか？
- 2 地域として独自の役割を考え、学校とセットで、子どもたちの学習環境をつくっているだろうか？
- 3 地域社会は、子どもたちが自立して力強く生きていく力を育てているだろうか？
- 4 地域のなかに子どもたちの居場所をきちんと設けているだろうか？
- 5 地域教育プログラムの充実と活性化を図っているだろうか？
- 6 地域活動への参加を子どもたちに促すための施策を実施しているだろうか？
- 7 子どもたちの視点に立ったまちづくりをしているだろうか？

🎓 学校 ✨

- 学校は社会性を身につける場所
- とともに力を合わせて学校をつくるという態度を
- 「いじめ」をめぐる
- 学校をもっと開いていこう
- 社会の一人ひとりが人を育む気概を

●学校での育みを見なおすための 七つの問い

- 1 学校は、子どもたちにしっかりと学力を身につけさせ、先生や友人との関係をつうじて対人関係の基本を育んでいるだろうか？
- 2 教師は、一人ひとりの子どもに自信をもたせる努力をしているだろうか？
- 3 学校では、道徳教育を魅力的で説得的なものにするよう、工夫をしているだろうか？
- 4 道徳教育の時間だけでなく、学校全体で「こころを育む」という姿勢をとっているだろうか？
- 5 学校では、「こころを育む」ための具体的なアクションをとっているだろうか？
- 6 学校と親(保護者)とは、たがいの立場を尊重・理解し、協力しあう関係にあるだろうか？
- 7 学校と地域の大人たちは、一致協力して、子どもたちの居場所、子どものための相談場所を設けているだろうか？

🏢 企業 ✨

- 文化としての「育み」
- 思いどおりにならないこと
- 子どもたちを苛む(わたし)への問い
- 企業も地域における子どもたちの「育み」をともに担おう
- 情報社会という環境

●企業・メディアによる育み支援を考えるための 七つの問い

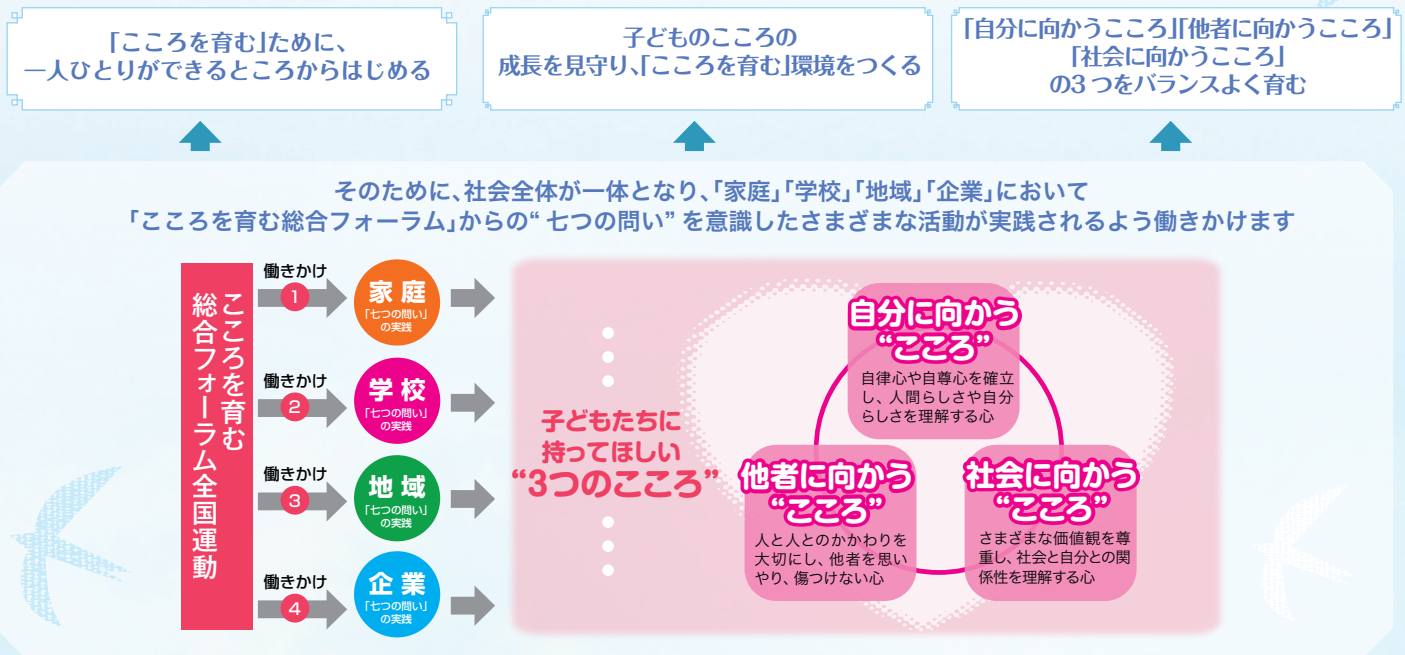
- 1 企業は、その使命と役割を自覚した行動ができているだろうか？
- 2 企業人は、みずからが同時に市民・生活者であることの自覚を十分にもっているだろうか？
- 3 企業人一人ひとりが、同時に市民・生活者として、よりよい社会づくりに積極的に関与しているだろうか？
- 4 企業みずからが、市民としての社員教育に積極的に取り組んでいるだろうか？
- 5 メディアは、子どもたちに学びや仕事の意義や楽しさを、きちんと伝えているだろうか？
- 6 メディアは、地域のすぐれた教育活動の事例を、進んで報道しているだろうか？
- 7 わたしたちの社会は、高度情報化社会が子どもたちの対人関係に与える影響を考えた対応をしているだろうか？

なぜ、今、「こころを育む総合フォーラム 全国運動」を呼びかけるのか

想像を絶する残虐な事件、組織の不祥事、人として守るべきマナーの欠落。私たち日本人が本来持っていたはずの素晴らしい倫理感はどこへ行ってしまったのでしょうか。このような状況に危惧を持ち、未来を担う子どもたちのために、個人や団体でさまざまな活動をさ

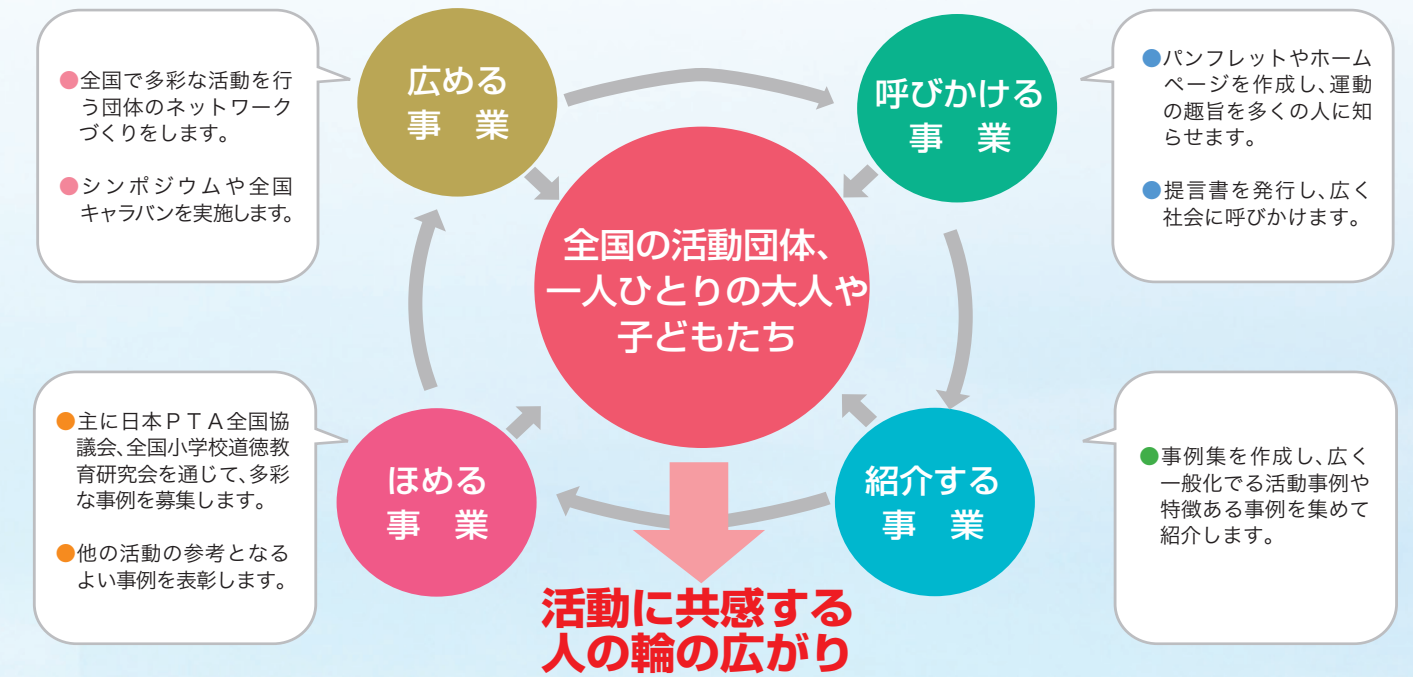
れている方々がいます。「こころを育む総合フォーラム」では、そのような活動を応援し、全国に広げるために、そして子どもたちの健やかな未来をみんなで考えるために、「こころを育む総合フォーラム 全国運動」を呼びかけています。

全国運動のねらい



全国運動を実施する主な事業とは

全国各地で実践されている、子どもたちの“こころを育む活動”を支援するために「呼びかける事業」「紹介する事業」「ほめる事業」「広める事業」の4つの事業を展開いたします。



呼びかける事業

■事業のねらい

「こころを育む総合フォーラム 全国運動」の趣旨をより多くの人に知らせ、共感する個人・団体を増やすことと同時に、広く社会一般に問題提起をします。

■事業内容

パンフレット、ホームページ、新聞等のさまざまなメディアを活用しての広報を実施します。

① 社会全般への呼びかけ
有識者会議[※]での検討内容を提言書として発信し、社会への呼びかけや問題提起をします。
※P2にメンバーを掲載しています。

② 大人への呼びかけ
子どもたちのこころを育む活動を広く募集し、大人全般に呼びかけをします。

③ 子どもへの呼びかけ
子どもたちのこころを育む活動について、各メディア等を通して子どもたちに呼びかけをします。

紹介する事業

■事業のねらい

全国で実践されているさまざまな子どもたちのこころを育む活動について、より多くの方々に知らせ、新たにそれらの活動へ参加したり支援をするきっかけを作ったり、活動の改善や新しい領域へ活動の輪を広げる機会を提供します。

■事業内容

“ほめる事業”に応募いただいた、全国の多彩な実践活動例の中から特に、子どもたちのこころを育む活動であり、進める・広げる・続ける「3つの工夫」が認められるなど、他の活動の参考となる事例を紹介するため、事例集を作成します。

① 事例集
優秀事例に選出された活動について、目的や内容、主な実践プログラムをはじめ、参加した子どもたちの声、進める・広げる・続ける「3つの工夫」など、実践者の方々への取材を元に、具体的にわかりやすく紹介します。

ほめる事業

■事業のねらい

全国各地で実施されている活動の中から、他の活動の参考となるよい活動を表彰し、運動の元気づけをします。

■事業内容

全国各地で実践されている、子どもたちの“こころを育む活動”を自薦・他薦を問わず、活動の大・小や個人・団体も問わず募集し、審査の上、表彰します。

下記の「3つの工夫」のいずれかが認められること

① 応募できる活動

進める工夫 活動の対象や目的が明確で、進め方における工夫・努力がある

広げる工夫 ネットワークを作り、活動を広げるための工夫・努力がある

続ける工夫 活動を継続するための仕組み・工夫がある

② 表彰の内容	団体の部	全国大賞	1件	表彰状・盾・賞金100万円
		ブロック大賞	全国大賞が選出されたブロックを除き、各ブロックから1件	表彰状・盾・賞金30万円
	個人の部	奨励賞	若干数	表彰状・記念品
		個人賞	若干数	表彰状・記念品
		奨励賞	若干数	表彰状・記念品

広める事業

■事業のねらい

「こころを育む総合フォーラム 全国運動」を広めるために、運動に関心のある個人、また団体同士の交流を図り、情報交換などを促すことにより、運動のネットワーク化を進めます。

■事業内容

「こころを育む総合フォーラム 全国運動」を広めると同時に、表彰された活動を紹介し、また個人・団体同士の全国規模のネットワーク作り、情報交換の場として「シンポジウム」「全国キャラバン」を実施します。

① シンポジウム
(年1回 東京開催予定)
全国から実践者を招き、優秀事例の表彰と紹介、有識者メンバーとのパネルディスカッションなどを通して、情報交換を行ったり交流を深めるために「シンポジウム」を開催します。

② 全国キャラバン
(年2～3ヶ所開催予定)
「全国キャラバン」として、「こころを育む総合フォーラム」有識者メンバーが各地域を訪れ、地域で活動を実践している方々を招いてパネルディスカッションなどを行い、実践者と交流します。

有識者会議

2005年の「こころを育む総合フォーラム」設立以来、各界を代表する有識者メンバーによるブレックファースト・ミーティング（有識者会議）を続けています。11年度までに計27回実施され、ゲストスピーカーを招き、日本人の心のありようについて、家庭・学校・地域・企業などの視点から討議を重ねています。



ブレックファースト・ミーティング。

全国キャラバン

フォーラム有識者メンバーが各地域を訪れ、地域で「こころを育む」活動を実践している方々と交流する全国キャラバンを開催しています。子どもたちの健やかな未来を地域の皆さんと共に考え、「こころを育む」取り組みを広げていきたいと考えています。

こころを育む総合フォーラム 2011 in 熊本

「子どもたちの笑顔のために ～地域ぐるみで夢とこころを育もう～」

日時：11月23日

会場：くまもと森都心プラザ

内容：文徳中学校3年生の宮村紫苑さんに発表いただき、熊本県青少年育成県民会議表彰、「こころを育む総合フォーラム」山折哲雄座長による基調講演が行われました。パネルディスカッションでは、昨年度「こころを育む活動」全国大賞を受賞したオババト隊の下川隊長をはじめ、学校・地域の代表、パナソニック教育財団の遠山理事長、コーディネーターに熊本大学の古賀教授を迎え、議論が交わされました。最後に、学校・家庭・地域の「つながり」を「絆」にしていくよう連携・協力して、地域ぐるみで子どもを育てることをまとめとし、今後の地域での取り組みを推進していくきっかけとなるフォーラムになりました。



(1)「少年の主張」熊本県大会最優秀者による発表

「さらぬ別れのなくもがな」
文徳中学校3年 宮村 紫苑 さん

(2) 熊本県青少年育成県民会議表彰

(3) 基調講演

山折哲雄氏（国際日本文化研究センター名誉教授）
演題：「こころを育むとは ～危機と不安のなかで生きる～」

(4) パネルディスカッション

- ◎コーディネーター
古賀 倫嗣氏（熊本大学教育学部副学部長）
- ◎パネリスト
下川 邦子氏（オババト隊長）
坂本 一正氏（熊本県PTA連合会会長）
池邊 利昭氏（熊本県小学校長会会長）
遠山 敦子氏（パナソニック教育財団理事長、元文部科学大臣）
- ◎モデレーター
山折 哲雄氏（基調講演者）

提言書



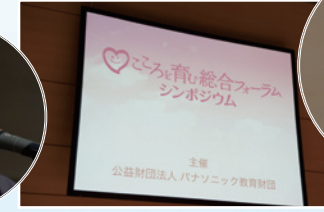
こころを育む総合フォーラム
からの提言

有識者会議での討議の結果をご報告するとともに、家庭・学校・地域・企業などへのメッセージという形で、提言をまとめ、発表しました。さまざまな立場の方にこの提言をご覧ください、なんらかの活動をはじめのきっかけにいただけたら幸いです。

提言書は、「こころを育む総合フォーラム」ホームページでもご覧いただけます。
<http://www.kokoro-forum.jp/teigen/teigen.html>

シンポジウム

2012年2月4日、津田ホールにて「こころを育む総合フォーラム シンポジウム」を開催いたしました。4回目となる今回は、「こころを育む総合フォーラム 全国運動」11年度優秀事例の表彰式、受賞者による実践事例発表、受賞者と有識者によるパネルディスカッションを行いました。全国から多くの方にお集まりいただき、優れた活動を紹介すると共に、全国運動を呼びかけました。



4回目となるシンポジウム。地域で「こころを育む活動」を実践されている方々など、全国からご参加いただきました。

表彰式

11年度に募集した、子どもたちの「こころを育む活動」より選出された優秀事例の表彰を行いました。個人の部から奨励賞1名・個人賞1名、団体の部から奨励賞9団体・ブロック大賞5団体が出選され、第四回全国大賞には三重県の石榑の里コミュニティが選ばれました。



全国大賞を受賞した石榑の里コミュニティをはじめ、受賞者の方々に表彰状と記念品などが贈られました。

受賞実践事例発表

団体の部ブロック大賞受賞の5団体と、全国大賞の石榑の里コミュニティによる実践事例の発表が行われました。具体的な活動内容をはじめ、活動を進める、広げる、続けるためのさまざまな工夫についてお話いただきました。



各受賞団体から、活動における独自の取り組みやユニークな工夫が紹介されました。

パネルディスカッション 「いま、子どもたちのこころを育むとは」

「いま、子どもたちのこころを育むとは ～東日本大震災の復興支援に向けて～」をテーマに、受賞者と有識者によるパネルディスカッションを行いました。子どもたちのこころを育むための取り組みについて、熱い議論が交わされました。



受賞者と有識者による議論の後、会場からも質問をいただき、質疑応答が交わされました。

- ◎コーディネーター 市川伸一
（東京大学大学院 教育学研究科長／教育学部長・文学博士）
- ◎パネリスト
森 清光（石榑の里コミュニティ 代表）
山本 克彦（岩手県立大学 准教授）
滝鼻 卓雄（前 読売新聞東京本社 相談役）
遠山 敦子（パナソニック教育財団 理事長）

受賞者交流会

シンポジウム終了後、受賞団体・個人の方を招いて交流会を行いました。今までに受賞された方々にも参加いただき、実践者の皆さんと有識者メンバーが意見交換をしながら、交流を深める場となりました。



11年度受賞の方々と、今までに受賞された方々を招いて、交流の場として開催しました。



「こころを育む総合フォーラム」 活動の経緯

2005年

「こころを育む総合フォーラム」発足

- 4月 学界、経済界をはじめ各界を代表する16名のメンバーで発足
- 10月 京都にてシンポジウムを開催



ゲストスピーカーを
招いての有識者会議



有識者会議

2006年

- 10月 東京にてシンポジウムを開催

2007年

議論をまとめた「提言書」をプレス発表

- 1月 発足から計18回の討議を経て、提言書を公表
- 11月 東京にてシンポジウム開催



日本プレスセンターで行われたプレス発表



シンポジウムの様子を伝える

2008年

「こころを育む総合フォーラム 全国運動」スタート

- 6月 子どもたちの「こころを育む」活動の募集・表彰を開始
- 8月 高松・北見にて全国キャラバン開催



全国キャラバン高松

2009年

- 3月 「こころを育む総合フォーラム 全国運動」2008年度表彰式・シンポジウム開催
- 8月 浦安にて全国キャラバン開催
- 12月 松江にて全国キャラバン開催
- 12月 『いま、こころを育むとは』(山折哲雄著・小学館新書)刊行



全国キャラバン浦安

2010年

- 2月 「こころを育む総合フォーラム 全国運動」2009年度表彰式・シンポジウム開催
- 10月 山形にて全国キャラバン開催
- 12月 大阪にて全国キャラバン開催



2009年度表彰式での実践事例発表

2011年

- 2月 「こころを育む総合フォーラム 全国運動」2010年度表彰式・シンポジウム開催
- 11月 熊本にて全国キャラバン開催



2010年度受賞者のみなさん

2012年

- 2月 「こころを育む総合フォーラム 全国運動」2011年度表彰式・シンポジウム開催

新有識者メンバーを迎え、さらなる討議を開始



全国キャラバンやシンポジウムでの講演内容をまとめた一冊。「いま、こころを育むとは」山折哲雄 著(小学館)

子どもたちの「こころを育む活動」

2011年度 受賞事例



「こころを育む総合フォーラム」では、全国各地で実践されている子どもたちの「こころを育む」活動を募集し、優れた事例を支援し、紹介する全国運動を展開しています。審査・選考は、子どもたちの「こころを育む」活動であること、進める工夫・広げる工夫・続ける工夫が認められることなどを基準に行われます。第四回となる2011年度は、個人の部から奨励賞1名・個人賞1名、団体の部から奨励賞9団体・ブロック大賞5団体が選出され、もっとも優れた活動として、石樽の里コミュニティが全国大賞に選ばれました。子どもたちの「こころを育む」活動の輪がさらに広がることを願い、ここに2011年度の全受賞活動事例をご紹介します。



アイコン説明

受賞事例紹介ページでは、「活動領域」と「活動を通して育むことができる3つのところ(くわしくは6ページ)」をアイコンで表示しています。

●活動領域



●3つのところ



子どもは地域の宝 地域全体で子どもを守り育てる
～交流・協働・共育の学校づくり、人づくり、里づくり～

地域全体で子どもを守り育てるための 学校と地域による組織づくりと協働活動

●活動領域

家庭 学校 地域 企業

●3つのところ

自分に 他者に 社会に
向かうところ 向かうところ 向かうところ



学校を拠点に地域一体に
学校・家庭・地域が一体となり
ボランティア組織を構成し、地
域全体で子どもを守り、育てる
活動を展開しています。

石樽の里コミュニティとは

小学校を拠点に 「学校、人、里づくり」に取り組む 地域住民・団体を結ぶネットワーク

石樽小学校を拠点に、地域全体で子どもを守り、育てる活
動を展開しているボランティア組織です。活動のルーツ
は、石樽小学校の校舎建て替えに伴い、2001年に学校関
係者・行政・設計者・地域の人たちを集め発足した建設
委員会です。建設委員会会議や公開ワークショップを重
ねる中で、学校支援・子どもの健全育成・地域の絆づくり
へ目的が広がり、組織化へと発展しました。「子どもは地
域の宝であり、地域と学校が力を合せて子どもを育てる」
「交流・協働による学校づくり、人づくり、里づくり」を活
動理念として、学校・家庭・地域が一体となり、企業や団
体と連携しながら、さまざまな取組みを企画・運営して
います。

石樽の里コミュニティ 組織構成

- **石樽の里ボランティア部会**
【交流協働事業】
校内の住民活用フロア「地域ゾーン」を拠点に、子
どもの居場所づくりを行っています。
- **石樽の里会議**【里づくり事業】
地域一体で進めるため、自治会・老人会・民生委員・
育友会（PTA）などが取組みを共有します
- **いっけ石樽っ子安全ネットワーク**
【安心・安全づくり事業】
「見守り隊」など通学時や地域での安全を確保す
る、住民・保護者ボランティアです。
- **石樽の里共育委員会**【学校づくり事業】
開かれた学校づくりを推進するための、住民・保護
者・有識者による学校運営協議会です。
- **コミュニティ連絡会**
取組みを効果的に進めるために、上記4組織との連
絡・調整を行います。



石樽の里コミュニティの活動

子どもと大人の心を育み、 誇れる学校と地域を育む 地域一体の交流・協働・共育活動

■ 校舎を活用した子どもの居場所づくり

学校施設の一部を開放した休日・放課後の子どもの居場所「地
域ゾーン」の管理・運営をしています。毎週水曜や日曜に開催し
ている地域ボランティア講師による「わくわくスクール」では、
『花あそび』や『作って食べよう』など、子どもやその親を対象と
したさまざまな講座を実施しています。



体験講座「わくわくスクール」
「地域ゾーン」で実施している「わくわくスクール」では、料理教室
『作って食べよう』など、さまざまな講座を受講できます。

■ 地域の伝統を指導

総合学習や生活科の時間に、地域の人たちの協力で体験学習を
行っています。低学年は牛舎の見学や乳搾り、茶摘みや茶工場見
学など、高学年は田植えや稲刈りなど、学年毎に地域の伝統や産
業について体験しながら学ぶ機会を設けています。



地域の人たちが体験学習を支援
茶畑での茶摘みや牛舎での乳搾りなど、地域の伝統や産業に携わっ
ている人たちが指導しています。

■ 地域資源を活用した取り組み

国道421号石樽トンネル開通を前に、石樽トンネル内を見学す
る『石樽トンネル大遠足』の実施、自然の宝庫である地域の山を
登る『竜ヶ岳登山』の実施など、石樽ならではの地域の資源を活
かした活動を行っています。大人も子どもと一緒に活動すること
で、地域を知り、地域に学び、地域を愛する機会となっています。



地域を学び、郷土愛を育む機会に
『石樽トンネル大遠足』では、150名の参加者が石樽小学校からトン
ネルまで往復9キロの道のりを歩きました。

■ 「石樽の里まつり」の企画・運営

石樽小学校を会場に、地域の子どもから高齢者までが楽しむお祭
りを、年に1回11月初旬頃に開催しています。地域住民の4分の
1にあたる1,200人が参加しており、地域と学校の交流をさら
に深め、コミュニティの活動目的や成果を地域で共有する機会と
なっています。



地域交流を深める
「里まつり」
連携する名古屋大学によるワークショップなど、さま
ざまなプログラムを実施。子どもたちが地域の人たち
に感謝を伝える機会にも。

■ 草刈の請負や市のごみ袋取次などで活動費を確保

学区を通る国道の草刈りを請け負うなど、環境活動により活動費を確保しています。



■ 通学路や地域の安全確保

老人会と保護者有志計40名が「見守り隊」となり、毎日通学の同行・見守りを実施しています。犯罪に巻き込まれそうになったときのための「子どもを守る家」訪問（「子どもを守る家に行こう」）、自分の身を守る方法を学ぶ『親子防犯教室』などの活動も行っています。



参加した皆さんの声

■ ぼくは里まつりで「人と人のつながり」を感じた。地域のボランティアの人と一緒に声でつながった群読、お昼の食事を作って下さった方への感謝の気持ちのつながりなど、里まつりでもらったたくさんのつながりを今度は僕たちがつないでいきたい。(小学生)

■ 見守り隊のおじさん、おばさんと一緒に歩きながら、道に咲いている草花の名前を教してもらったり昔のお話を聞きます。優しい見守り隊の人たちが大好き。(小学生)

■ 春はパンジー、夏はマリーゴールド、秋には葉牡丹…色いっばいの学校の花壇のそばを通学するのが楽しみ。花の植え替えや水やりをしてくださっている地域のおじさんたち、ありがとう。(小学生)



■ 地域企業の海外支援活動に協力

地域の企業が実施する海外支援衣料回収に協力し、衣料の回収作業などを行っています。



見守りを通して世代間交流も
老人会など有志の地域住民による「見守り隊」が、毎日朝夕の通学を見守りながら、子どもたちとの交流を深めています

■ 家に閉じこもっていると世間のことがわからなくなります。毎日外を歩いて子どもたちと話すことで、子どものこと、地域のことがよくわかるようになりました。(「見守り隊」の高齢者ボランティア)

■ 地域の方のあたたかいバックアップがあり、困った時にはすぐに相談し助けて頂けるという関係が築けてきていることが、私たちの教育活動の手助けとなっています。(石榑小学校教諭)

■ 企業の社会貢献活動として、学校や地域と連携できることは非常にありがたいです。(地域企業)



石榑の里コミュニティの活動

校舎づくり、コミュニティの組織づくりにより 学校が地域の交流の場として定着

学校と地域が一緒になって計画を進めた新校舎（公共建築賞受賞）には、子どもたちが楽しく生活できる工夫や、地域活動の拠点となるような場所が盛り込まれ、新校舎完成後、石榑小学校は「コミュニティスクール」として、学校と地域の協働による運営が行われています。校舎づくり、学校と子どもたちを地域住民が常に取り囲むコミュニティの組織づくりと活動により、学校が地域の交流の場として定着しています。地域について学び、地域住民と交流する活動を通して、子どもたちに地域住民への感謝の気持ち、学校や地域への誇りと愛情が育っています。子どもを中心に親・地域住民・教師の交流が深まり、学校づくり・人づくり・里づくりに貢献しています。



深まる地域の絆
コミュニティの組織づくりをはじめ、工夫に満ちた活動を通して、地域の絆が深まっています。

子どもと大人が楽しみながら交流
「石榑の里まつり」での地区対抗の100連風あげ。各地区の自治会長を中心に、子どもたちと地域の人たちが協力して風づくりを行います。

3つの工夫

進める工夫

家庭や地域の絆が弱まってきた状況を受け、地域全体で子どもを守り育てるため、地域と学校からなるコミュニティを組織しました。地域の声を反映し建設した学校を拠点とし、子どもたちとの交流・学校との協働による「学校づくり、人づくり、里づくり」に取り組んでいます。毎年の取組みの集大成として「石榑の里まつり」を開催し、コミュニティ活動の目的と成果を地域全体で共有しています。

広げる工夫

自治会・老人会・民生児童委員・保護者らが参加する「石榑の里会議」を設置し、「地域全体で子どもを守り、育てるために私たちができること」について考え、共有する場を設けています。地域のさまざまな団体・企業・大学と連携し、活動内容の充実と広がりを図っています。学校ホームページの中にコミュニティのページを設けて情報を発信するほか、広報誌やチラシを全戸配布して地域で情報を共有しています。「わくわくスクール」の講師や各活動の『ぼちぼち応援団』（ボランティア）の募集を行い、参加者を広げています。

続ける工夫

地域ファンドを設け、国道の草刈請負や募金などで、活動継続のための資金を確保しています。「石榑の里まつり」で、子どもたちが地域住民に感謝を伝える機会を設け、参加者のモチベーションを高めています。10年間の活動継続により、地域の絆が深まり、子どもたちに感謝の気持ちや郷土愛が育まれています。こうした成果を受け、地域力・家庭力の低下など同様の課題を持つ地域や団体との交流や、全国への発信を目指しています。

絆プロジェクト

郷土愛を育み、地域活性化へ 中学生による地域活動

●活動領域

家庭 学校 地域 企業

●3つのところ

自分に 他者に 社会に
向かうところ 向かうところ 向かうところ



地域と共に生きる生徒へ
3年後の閉校後も地域と共に
生きる生徒の育成を目指し、
地域活動に生徒を参加させる
ことで、生徒と地域の絆づく
りを進めています。

活動内容の紹介

閉校を前に、地域と生徒の絆づくりを

生徒数減少による町内中学校の再編を受け、3年後の閉校が決まり、地域の人は地域から中学生の姿が消えてしまうのではないかと危機感を抱いていました。そこで、地域と生徒の関わりを見直し、閉校後も地域と共に生きる生徒の育成を目指し、プロジェクトを立ち上げました。地域のまちづくり協会への参加、消防団の防災活動への参加、青年団と協力し地域の夏祭り運営に取り組むなど、さまざまな地域活動に生徒を参加させることにより、生徒と地域の絆づくりを進めています。



防災活動へ参加
まちづくり協会、消防団、青年団などの地域
団体と連携。防火をよびかけるパレードな
ど、消防団の防災活動へ参加しています。

活動の広がりなど

生徒の活動により地域づくりへ発展

生徒たちは、大人たちと並んで地域活動で活躍しており、その存在そのものが地域の活気を生み出しています。生徒一人ひとりが主体的にさまざまな活動に関わり、地域に認められ頼られる体験を通して、自信と充実感を得て、地域を愛する心を育んでいます。地域の人々にとっても、地域やそれぞれの事業に新たな価値と意義を見出すきっかけとなっており、閉校が地域づくりにつながっています。地域に残る小学校との連携などによる閉校後の活動継続を目指しています。



まちづくり協会に中学生委員が誕生
まちづくり協会の総会に中学生委員が参加した
り、学校に協会長を招きパネルディスカッション
を行うなど、連携した活動を進めています。



地域の各団体と連携、交流
朋友会（青年団）と連携した夏祭りの準備・運営、
敬老会のための清掃活動など、さまざまな団体・
世代との絆づくりを行っています。

参加した皆さんの声

■地域を考えるシンポジウムを聞いて、全校
生があらためて地区の現状について考えることが
できたと思います。そして、中学生の地域におけ
る役割や責任が理解できました。（3年女子）

■今年の盆踊りでは 2週間前から太鼓や笛、鐘の
練習を始め、1週間前にはテントを建てたり、櫓飾
りを作ったり、係を決めて本番に向けがんばって
きました。（中略）中学生と地域の方が協力して成
功させることができて良かったです。（2年男子）

絆プロジェクトの活動

1 地域まちづくり協会との絆づくり

地域の自治を統括しているまちづくり協会の総会に中学生委員が参加しています。総会を受け、地域の運動会の準備や運営に協力するなど、生徒が分担して地域活動に参加しています。また、総合的な学習の時間を活用し、協会長を招いて地域の現状や将来についてパネルディスカッションを行い、意見交流を行っています。

2 地域消防団との絆づくり

生徒が防災会議に参加し、地域の防災体制を学んでいます。また、消防センターのシャッター壁画を制作したり、消防車で防火パレードに参加するなど、交流を通して絆を深めています。

3 朋友会（青年団）との絆づくり

朋友会と連携しながら、生徒が分担して地域の夏祭りの準備や運営に取り組んでいます。今まで客として楽しんでいた地域の夏祭りに、全面的に参画することで、生徒の主体性や社会性を育てています。



地域を支える力に
沢石中学校全校生徒。そ
の存在が地域の活気を
生み、活動は地域づく
りにつながっています。

3つの工夫

進める工夫

地域と生徒の関わりを見直し、生徒の存在と役割を明確にするとともに、閉校後も地域と共に生きる生徒を育成することを目指し、閉校までの3年間を見通して活動を進めています。学校からの助言を控え、2,3年生から選出したプロジェクト委員会を中心に、生徒が自主的に活動できるよう配慮しています。

広げる工夫

地区のまちづくり協会・消防団・青年団と連携し、生徒をさまざまな地域活動に参加させることで、生徒と地域の絆づくりを進めています。生徒の自主的な参画により、生徒自身が成長するだけでなく、各団体や住民、学校など地域全体が活性化し、新たな地域づくりの輪が広がっています。

続ける工夫

閉校後も生徒と地域の絆が続くよう、活動内容や地域との連携、地区まちづくり協会に参加する中学生委員の選出や役割の明確化を進めています。さらに、地域に残る小学校との連携、高校生の参加を促すことなどにより、閉校後の活動継続を目指しています。

対話型ワークショップ「カタリ場」

高校生の自己肯定感を育む 先輩と対話し交流する場

●活動領域

家庭 学校 地域 企業

●3つのところ

自分に 他者に 社会に
向かうところ 向かうところ 向かうところ



考え、気づく場を提供
全国の高校へ出向き、高校生の
自己肯定感を高めるための対
話型ワークショップ「カタリ
場」を実施しています。

活動内容の紹介

大学生ボランティアによる対話型プログラム

「生き抜く力」を備えた若年層にあふれる社会」というビジョンのもと、高校生の自己肯定感を高めるための対話型ワークショップ「カタリ場」を、全国の高校へ出向いて実施しています。大学生や専門学校生のボランティアが中心となって高校を訪問し、高校生から夢や悩みの話を引き出し、また自身の経験を語りかけます。年齢の近い先輩と対話する授業を通して、高校生たちは自分や将来について深く考え、さまざまな気づきを得ています。

活動の広がりなど

自己肯定感を高め、一歩踏み出すきっかけに

先生（タテの関係）でも友達（ヨコの関係）でもない、先輩（ナナメの関係）である大学生ボランティアとの対話によって、高校生たちの自己理解を促し、自己肯定感を高めています。11年間の活動により、82,000人以上の高校生に「カタリ場」を提供しており、テレビや新聞など多くのメディアに取り上げられています。より多くの高校生に「カタリ場」を提供することはもちろん、従来の形にとらわれず、小学生や中学生の自己肯定感を高める活動も進めています。

自己理解を促す座談会

座談会では、大学生ボランティアが対話を通して高校生の思いを言語化し、未来の夢や不安を引き出します。



先輩が身近なロールモデルに
大学生ボランティアによるプ
レゼンテーション。今打ち込
んでいること、進路選びの失敗
談、高校生のときの後悔などを
語ります。



気づきを行動へ

その日からできる行動を書き込む「約
束カード」。「約束」により、気づきを日
常生活へつなげます。



全国の高校生に「カタリ場」を
大学生や専門学校生約4,500名がボ
ランティアとして登録し、各地の高校
に出向いて活躍しています。



参加した皆さんの声

■親にも先生にも友達にも言えないことがある。今日、それを聞いてもらって、すごく楽になった。(高2男子)

■はっきり言って、最初はマジだるいと思っていたのに、こんなに感想書きたいと思うくらいにいい授業だった。(高1男子)

■この授業が1年生のときにあったらもっと勉強していたと思う。今日から本気になりたい。(高2女子)

対話型ワークショップ「カタリ場」

1 座談会

大学生ボランティアが高校生と対話し、彼らが好きなこと、嫌いなことを言語化するとともに、未来の夢や漠然とした不安などを引き出していきます。これによって、高校生たちの自己理解を促し、自己肯定感を高めます。

2 先輩の話

大学生ボランティアが、今打ち込んでいることや夢、進路選びの失敗談などを紙芝居形式でプレゼンテーションします。高校生たちは、先輩の話を聞く中で、さまざまなロールモデルに触れることができます。

3 まとめの時間

「カタリ場」で得た気づきを行動につなげるために、その日からできる小さな行動をカードに書き込みます。大学生ボランティアと「約束」することで、得られた自己肯定感や高揚感を日常生活へつなげます。



3つの工夫

進める工夫

先輩（ナナメの関係）である大学生ボランティアとの対話によって、高校生たちの日頃語られることのない内面を引き出し、自己理解を促し自己肯定感を高めています。独自のSNS「カタリパカフェ」を運営し、「カタリ場」後の大学生ボランティアと高校生の交流の場を設けています。

広げる工夫

全国の高校生に「カタリ場」を届けるため、各地の団体と連携し、ノウハウを提供しています。286名の会員、約4,500名の登録ボランティアにより、11年間の活動で354の高校と82,000人以上の高校生に「カタリ場」を提供しています。テレビ・新聞・雑誌・書籍等で取り上げられ、認知を広げています。

続ける工夫

より多くの人の参加や協力を得るために、活動報告会の開催、ウェブサイトの開設、メールマガジン発行、パンフレット配布など、さまざまな形で広報活動を行っています。活動の継続により、かつて「カタリ場」を体験した高校生が大学生ボランティアとして活躍しています。

山代ファミリーサポートセンター施設事業 ～チャレンジ活動とたそがれハウス事業～

温泉場地域のニーズに対応した 子育て支援活動

●活動領域

家庭 学校 地域 企業

●3つのところ

自分に 他者に 社会に
向かうところ 向かうところ 向かうところ



総合的な子育て支援
厳しい子育て環境の温泉場地域において、子どもたちや親子を対象に、体験プログラムなどさまざまな支援事業を行っています。

活動内容の紹介

廃業店舗を活用し、多彩な支援活動の拠点に

温泉場地域において、経済状態の厳しい家庭や、夜間勤務の親とその子どもたちなどを対象に、さまざまな支援事業を行っています。廃業パチンコ店舗を活用した「山代ファミリーサポートセンター」を拠点とし、季節に合わせた体験プログラム「本物ちゃれんじ」や夜間学童事業、子育て支援センター事業などを実施しています。地域のニーズに対応しながら、子どもたちの学力・生活能力向上と共に、地域のコミュニティ機能向上を目指し、活動を展開しています。



既存社会資源を活用
廃業パチンコ店舗を活用した子育て支援総合施設、「山代ファミリーサポートセンター」。

活動の広がりなど

家庭支援複合施設として地域の活性化に貢献

体験プログラム「本物ちゃれんじ」には毎月20～30人の親子が参加しており、親子や子どもたちが自然の法則や先人の知恵を学ぶだけでなく、親が子育てや生き方について見つめ直す機会ともなっています。夜間の取り組みなど、地域に求められてきた事業を充実させることで、地域住民が安心して相談でき、またそれに対応できる家庭支援複合施設となっており、地域の活性化につながっています。地域の中高生がボランティアとして参加しており、活動は青少年の健全育成や自立支援の場ともなっています。廃業店舗など既存社会資源を有効活用し、地域のニーズに対応した子育て支援の先進的事業として、全国的な広がりを目指しています。



季節の行事や食を体験
12月に年越しそば打ち、1月に餅つきなど、季節に合わせた体験プログラムを実施しています。



多彩なプログラム
立山登山やへぐら島海洋合宿など合宿プログラムも実施。年間を通して多彩なプログラムを展開しています。

参加した皆さんの声

■へぐら島海洋合宿は、大自然を満喫できる期待とみんなでお泊りできることを楽しみに参加しました。へぐら島では、素潜りでお魚を捕まえたり、釣りをしたりしました。日常では体験できないような体験ができました。へぐら島は海水の濁りがなく透き通ったきれいな海でした。海の中はきれいな模様の魚がいたり、大きな貝殻やたくさんの海藻があって面白い海でした。(小学4年女子)

■立山登山は、登りはじめは楽しく楽に歩けたが、だんだん標高が高くなっていくに連れて疲れも出てきてつらくなってきた。けど友だちや先生たちと元気を分け合いながら協力して山頂まで登ることができた。頂上の景色は今までで一番きれいだった。そこで食べたご飯も最高だった。自然は素晴らしいと思った。(小学5年男子)

ニーズに合わせた支援事業

- 1 体験プログラム「本物ちゃれんじ」**
地域の子どもたちを対象に、月1回、季節に合わせた体験プログラムを実施しています。餅つきや流しそうめんなどの体験プログラムのほか、海洋合宿や登山合宿などの合宿プログラムを実施しています。
- 2 夜間学童「たそがれハウス」**
夜間勤務の保護者が多い温泉地区の子どもたちを対象に、夜間に子どもを預かり食事提供や入浴指導を行っています。
- 3 子育て支援「すまいる広場」**
地域の子育て支援の拠点として、「山代ファミリーサポートセンター」内に親子の交流や情報交換の場を運営しています。
- 4 学童保育「ちゃれんじやー」**
市委託事業として、学童保育事業を行っています。学習支援をはじめ、スポーツ教室や自然体験など、さまざまなプログラムを実施しています。
- 5 自立支援事業**
- 6 地域交流拠点事業** など

本と地域が支える子どもの文化 ～民間の図書館発、子どもの未来行き～ 全国初のNPO 運営図書館による 本と人をむすぶ場所づくり

●活動領域

家庭 学校 地域 企業

●3つのところ

自分に 他者に 社会に
向かうところ 向かうところ 向かうところ



図書館を交流の場に
全国初のNPO 法人が運営する
図書館として、おはなし会や
「巡回こどものとしょかん」な
ど、幅広い活動を展開してい
ます。

活動内容の紹介

民間の図書館ならではの多彩な活動を展開

全国で初めてのNPO 法人が設立し運営する図書館として1999年に開館しました。本の貸出・閲覧など通常の図書館業務のほか、企画展やおはなし会開催など、幅広い活動を展開しています。また、図書館のない町村に期間限定の模擬図書館を開設する「巡回こどものとしょかん」など、館外にも活動を広げています。子どもたちに、本や人との出会いを通してゆったり成長できる場を提供すること、また地域の交流の場となる図書館を目指し、12年間にわたり活動を継続しています。



活動の広がりなど

子どもが本と人に触れながら成長できる場所に

「巡回こどものとしょかん」事業は、図書館のない町村の子どもたちや大人に図書館の楽しさや必要性を実感してもらうことで、地域に「本と、本を手渡す人のいる場所」ができるきっかけとなっています。小学生のときに読書会に参加した子どもが、高校生になって読書フォーラムの実行委員長として活躍するなど、図書館は子どもたちが本や人に触れながらさまざまなことを学び、成長できる場となっています。会費や寄付、ボランティアなどで多くの地域の人たちが活動に協力しています。



多彩な活動を展開
地域の親子でにぎわう図書館
内。テーマに沿った本を展示・
紹介する企画展も人気です。



学校でのブックトーク
県内の小中学校へ出向き、本を紹介するブックトーク。館外へ活動を広げています。



本と出会う場を提供
左：全国初のNPO 法人
運営図書館「高知こ
どもの図書館」 下：図
書館のない町村に模擬
図書館を開設する「巡
回こどものとしょかん」



参加した皆さんの声

■次は図書館いつ来るの？

■この本の続きがあるなんて、知らなかった。今日借りていっていい？ やった、うれしい！

■絵本なんて今どきの子どもは読まないと思っていたのに、身近にあれば読むものなんですね。

■初めて読み聞かせをしたら、くいいるように絵本を楽しんでくれた。これから地元のボランティアのひとりとして活動してみたい。
(以上「巡回こどもの図書館」を開催した地域で)

多彩な活動内容

1 企画展

館内の多目的スペースで、テーマに沿った本を展示・紹介する企画展を年間10本前後行っています。

2 おはなし会

読み聞かせとわらべ歌や手遊びを組み合わせ、子どもや親子など年齢対象別に開催しています。

3 読書会

10代から70代までさまざまな年代が参加し、同じ本を読み、語り合っています。

4 巡回こどものとしょかん

図書館のない町村と連携して、700冊前後の本を提供し、2～4週間の期間、模擬図書館を開設しています。

5 子ども読書ボランティア養成講座

学校や図書館でのおはなしボランティアを行っている方や、始めたいと思っている方を対象とした連続講座を実施しています。

6 大人対象の絵本講座

7 地域の音楽家によるコンサート

8 絵本原画展

9 学生中心で運営する読書フォーラム

10 県内小中高校でのブックトーク など

3つの工夫

進める工夫

豊かな本の世界を届けるために、企画展やおはなし会などさまざまな活動を進めています。職員とボランティアと一緒に、広報誌の作成や選書、装幀作業などを行っています。大学生による英語の本の読み聞かせや企画展の運営など、大学生による「こどもの図書館応援隊」がゼミ単位で活動に協力しています。

広げる工夫

職員とボランティアからなる広報部で、会員向けの広報誌を年3回、1,500部発行しています。読書ボランティア養成講座を県内数カ所ですべて2003年からほぼ毎年開催しており、受講生数は800人を超えています。受講生がそれぞれの地域で「子どもの本の手渡し手」として活動できるよう支援しています。

続ける工夫

運営に関する経費は会費や寄付金に支えられており、多くの地域の人たちや企業から協力を得ています。さらに、活動資金捻出の一環として、「本のバザー」と「図書館バザー」を毎年実施しています。「図書館バザー」への出品作品を手作りする会も発足し、地域の人たちが定期的に集まり活動しています。

子どものまると体験フェスティバル
～地域通貨を使って仕事体験～

25団体が連携し開催する 社会のしくみを学ぶ体験プログラム

●活動領域

家庭 学校 地域 企業

●3つのところ

自分に 他者に 社会に
向かうところ 向かうところ 向かうところ



循環型社会を疑似体験
仕事体験や買い物体験を通して、社会のしくみを学ぶことができる「子どものまると体験フェスティバル」を開催しています。

活動内容の紹介

仕事をし、消費する疑似体験の場を提供

それぞれの地域で「子どもの居場所」を運営する団体が中心となり、青少年の健全育成を目指し、連携のための協議会を設立しました。主な活動として、25団体が参加する体験プログラム「子どものまると体験フェスティバル」を開催しています。仕事体験、買い物体験、観劇などの遊び体験を通して、子どもたちが社会のしくみや働くことの意義を学び、またコミュニケーション力を高め、自信と達成感をつかむことを目的として、しくみづくりやプログラム計画を行っています。



活動の広がりなど

団体や地域との連携により大規模な開催を実現

2010年度に開催した「子どものまると体験フェスティバル」は、559名もの参加者でにぎわいました。当日は、約200名のスタッフと約80名の学生スタッフが協力し、子どもたちの自主性やコミュニケーション力を引き出すよう対応しました。活動は、ただの体験にとどまらず、循環型社会のしくみを体験しながら学べる場となっています。複数の団体が研修会などで学び合い、さらに学生・地域・学校・行政と連携することにより、活動のさらなる充実を図っています。



多数の親子が「入村」
2010年度は、559名が「入村」。まず、ポップコーン作り（写真右）など、希望の仕事を選んで体験します。



「地域通貨」で買い物や遊び体験
仕事体験をして受け取った「地域通貨」で、買い物や遊びを体験します。マジックショーや消防士体験などさまざまなプログラムが用意されています。



参加した皆さんの声

■仕事をしてお金をもらえうれしかった。（参加した子ども）

■身近な材料でいろいろな物ができることを知った。（参加した子ども）

■子どもたちから元気もらった。ボランティアは、楽しく人のために働くことが大切だと学んだ。（学生スタッフ）

■子どもは世界どの国も同じだと深く感じた。（中国からの留学生）

●所在地：〒811-0119 福岡県糟屋郡新宮町緑が浜2-12-20 ●TEL：092-963-0661 ●E-mail：Krskm8522@yahoo.co.jp
●代表者：坂井 宏光 担当者：橋内 京子

「子どものまると体験フェスティバル」の 体験プログラム

●仕事体験

「ハローワーク」で22の職種から希望の仕事を選び、会場内の仕事場で体験し、その対価として「地域通貨」を受け取ります。

【職種の例】

銀行員：「地域通貨」の発行・管理

案内人：会場の案内、「ハローワーク」での仕事案内など

物作り：お菓子作り、竹やフェルトのおもちゃ作りなど

卸し問屋：物作り体験でできた製品を「スーパーマーケット」に卸す流通など

店員：「スーパーマーケット」での販売など

●買い物体験

物作り体験でできたお菓子やおもちゃなどの製品が並ぶ「スーパーマーケット」で、「地域通貨」を使って買い物体験をします。

●体験・遊びコーナー

「地域通貨」でチケットを購入し、マジックショーや消防士体験など12のプログラムから、好きなものを選んで体験します。



連携により活動が充実
25の団体と学生・地域・学校・行政が連携。地域の学生もスタッフとして活躍しています。

3つの工夫

進める工夫

多彩な仕事体験プログラムをはじめ、消防組合の協力による消防車の設置や大学生による科学実験など、子どもたちがわくわくしながらさまざまな体験ができる環境づくりを行っています。「地域通貨」を導入し、子どもたちが自ら考え行動しながら、循環型社会のしくみを学べる工夫を図っています。

広げる工夫

平日の子どもの居場所作りや休日の体験活動を開催している25の団体が、情報交換や学習会などで学び合いながら、連携して活動を行っています。さらに、地域の大人や学生をボランティアスタッフとして積極的に起用し、子どもの活動を地域でサポートするためのネットワークを広げています。

続ける工夫

子どもたちが好きなきに体験活動ができるよう、1週間・1カ月の長期開催、毎週土日の定期開催などを視野に入れ、さまざまな団体・学生・地域・行政と連携を進めています。活動を支えるスタッフを対象とした研修会を行い、指導者やボランティアのスキルアップを図っています。

こどもと大人がつくる日本一小さな遊〜遊〜村・村づくり事業 子どもと大人が協働で進める 子育て支援の拠点づくり

●活動領域

家庭 学校 地域 企業

●3つのところ

自分に 他者に 社会に
向かうところ 向かうところ 向かうところ



地域協働で子育て支援
子育て支援の場「遊〜遊〜村」をつくる活動を通して、
地域の子もたちと大人が
学び合い、高齢者との交流
を深めています。

活動内容の紹介

子どもと大人が学び合う協働事業

地域の小・中・高・大生376人と、大人51人が「村人」として協力し合い、子育て支援の場「遊〜遊〜村」づくりを行っています。地域の技術者が参加し、子どもたちを指導しながら、水を確保するための井戸ボーリングをはじめ、森や農園の整備・古民家の移築・石窯や炭窯づくりなどを実施しています。子どもたちにさまざまな体験と友達づくりの場を提供すると共に、地域の大人も子育て支援を通して学んでいく「共育」のシステム形成を進めています。

参加した皆さんの声

■ボーリングの前に、地下には地下水として水があることを教えてもらいましたが、本当に水が出たのに驚きました。交互に水をくみつけたら、ドロ水がきれいな水になって驚きました。飲む水になったのです。(小学6年生)
■みんなでつくった石窯でピザを焼きました。ガスオープンしか知らない私には、石窯でピザが焼ける事が不思議でした。(小学5年生)

活動の広がりなど

高齢者が地域に復帰する受け皿に

10年間の活動継続により、成長した子どもが指導者となり参加するなど、人材の循環が始まっています。また、退職した高齢者をボランティアとして受け入れることで、高齢者は培った技術と経験を生かし、子どもたちはその技術を学び、世代間交流を深めています。少子高齢化が進み、世代の循環が難しい地域において、村づくり事業は、子育て支援と同時に高齢者の地域参加の受け皿としての機能も果たしています。

3つの工夫

進める工夫・広げる工夫・続ける工夫

少子高齢化が進む大規模農業地帯において、分散し孤立した子育てを支援するために、地域に根ざした子育て支援の場づくりを行っています。成長した子どもたちがサポーターとして参加しており、人材が循環しています。また、退職した高齢者をボランティアとして受け入れ、地域参加の場を提供すると共に、マンパワーの充実を図っています。高齢者ボランティアによるバス運行など、遠隔地の子もたちが事業に参加できる体制づくりを進めています。

公園巡回型乳幼児期のたまり場づくり 近所の公園が外遊びの場に プレーリヤカー活動

●活動領域

家庭 学校 地域 企業

●3つのところ

自分に 他者に 社会に
向かうところ 向かうところ 向かうところ



リヤカーで公園を訪問
遊具をのせたリヤカーを引
いて公園などを訪問し、乳
幼児親子に貴重な外遊びの
場を提供しています。

活動内容の紹介

親子で安心して外遊びできる場所を

子どもの心や創造力を育てる外遊び支援のために、移動・巡回するプレーリヤカーによる遊び場づくりを行っています。サポーターが、砂遊び道具やままごと道具など、日常的な遊びが行える遊具をのせたリヤカーを引いて、決められた場所と時間に訪問します。活動は、外遊びの場や時間が減っている中で子どもたちに貴重な遊びの場を提供すると共に、親が子ども本来の姿を学び、また親同士で情報交換や交流ができる場ともなっています。

参加した皆さんの声

■乳幼児の外遊びは、子どもの成長にとっても重要。いろいろな経験をさせたい。プレーリヤカーは、同じ遊具でもいろいろな遊び方がることがわかり参考になる。特に、身近なものが遊具になっていて楽しめる。(保護者)
■たくさん、たくさん外遊びをさせたい。親も外のほうがリラックスできる。外遊びの活動はあまりなくて助かる。(保護者)

活動の広がりなど

実施しやすい仕掛けで、広がる活動の輪

プレーリヤカー活動は、実際に子育てしている母親たちの意見を取り入れ、企画されました。2006年に1台のリヤカーでスタートして以来、子育て団体と連携しモデル実施を重ね、11年には計5台のリヤカーが区内で活動しています。子どもの外遊び環境に対する危機感が高まる中、省資源、省経費で実施しやすく、地域交流、地域人材の活用につながる仕掛けは各地で注目されています。ノウハウを伝えることで、活動の輪が広がっています。

3つの工夫

進める工夫・広げる工夫・続ける工夫

移動・巡回できるリヤカーと、公園という公的施設を活用することで、行動範囲に限られる乳幼児親子に外遊びの場を提供しています。リヤカーを引くサポーターの育成、公園を活用するための行政との関係づくり、搭載品やプログラムの開発など、遊び場をつくるための工夫を重ねています。乳幼児期の心や身体を育てる外遊びの活動が多様に進むことを願い、培ったノウハウを各地に伝え、プレーリヤカー活動の普及を目指しています。

キャラバン隊『空』公演

障がい疑似体験し 理解を深める公演

●活動領域

家庭 学校 地域 企業

●3つのところ

自分に 他者に 社会に
向かうところ 向かうところ 向かうところ



体験で障がいを理解
小学校などに出向き、障がいの疑似体験などを通して障がいを持つ人たちの気持ちや接し方を伝える公演を行っています。

活動内容の紹介

障がい者の気持ちや接し方を伝えたい

知的障がいを持つ子どもの母親たちが中心となり、障がいを持つ人たちの気持ちや接し方を伝える公演活動を行っています。公演では、小学校などに出向き、子どもと保護者、教員、地域の人たちを対象に、障がいの疑似体験や子育て体験談、ワークショップなどを実施しています。子どもたちが相手の気持ちを考えて行動できるようになること、さらに知的障がいや自閉症の人たちが安心・安全に暮らせる地域づくりを目指し、活動を展開しています。

参加した皆さんの声

■僕は支援学級の子を笑っていました。今日の体験を思い出したら、みんな頑張って生きている人だな、と思いました。これからは誰にでも優しくできるようにしたいです。
■（手が不自由な状態の疑似体験で）軍手をはめ折り紙を折っているときに、早く！とか上手に！と言われてあせってしまった。終わってから、こんな不自由な人を笑っていたんだと思いました。頑張れ！と言います。

活動の広がりなど

体験プログラムにより、深まる理解

障がいの疑似体験は、言葉や手が不自由な状態やものの見え方の違いを、小道具などを使って体感できるプログラムです。参加した子どもたちは真剣に取り組み、障がいを持つ人の気持ちを知り、接し方を学び、障がいへの理解を深めています。子育て体験談をまとめた冊子や絵本を制作し、教育機関等に配布しており、学校での読み聞かせなどに使用されています。知的障がい児者の家族の会との連携、地域への働きかけなどにより、公演先を広げています。

3つの工夫

進める工夫・広げる工夫・続ける工夫

知的障がい児者の家族の会「市川手をつなぐ親の会」と連携し、会員がそれぞれ地域の学校に活動を伝えることで、市内及び近郊の小・中学校へ公演先を広げています。地域の自治会や民生委員、社会福祉協議会への働きかけやチラシの配布などで、活動への理解と認知拡大を図っています。知的障がいや自閉症の人たちが安心・安全に暮らせる地域づくりのために、医療機関や警察関係、交通機関などに公演先を広げることを目指しています。

子ども若者編集部

取材や執筆を通して 育まれる自己肯定感

●活動領域

家庭 学校 地域 企業

●3つのところ

自分に 他者に 社会に
向かうところ 向かうところ 向かうところ



不登校当事者による編集部
不登校・引きこもり当事者である子どもたちが編集を行い、当事者のための情報を発信しています。

活動内容の紹介

不登校当事者が当事者のための情報を発信

不登校・引きこもりの専門紙として当事者が安心できる情報・声を発信していくため、不登校・引きこもり当事者による子ども若者編集部を設置しています。毎月2回の編集会議を中心に、子どもたちが企画立案から取材、執筆までを行い、スタッフがサポートします。自分が悩んでいることなどから考え、インタビュー相手を決めるインタビュー企画、「当事者のためになること」をテーマにした企画執筆などがあり、57人の子どもたちが活動しています。

参加した皆さんの声

■（取材後）全身全霊でぶつかるといことは、こんなに恐くて、でもスッキリするものなんだ。
■（取材後）編集部は、どこにも行くところがなかった私の心の居場所。
■（編集会議中）自分がつらかったことを整理して、それをいま苦しんでいる人に伝えることが、私たちの使命だと思う。

活動の広がりなど

自己表現の場を13年間にわたり保障

企画立案から取材、執筆までを行う過程の中で、子どもたちは自己と対話し、自己を言語化し、他者とつながり「生きる実感」を得ています。13年間にわたる活動継続により、213本の企画を実施し、子どもたちに自己表現・自己実現の場を提供し続けています。培ったノウハウを生かし、子ども同様に当事者である親の編集部をつくることを視野に入れています。紙面の電子書籍化、定期的なイベント開催など、さらなる活動の展開を計画しています。

3つの工夫

進める工夫・広げる工夫・続ける工夫

「不登校・引きこもりでも安心できる社会の創造」をミッションとし、当事者性の高い紙面づくりを13年間にわたり継続しています。スタッフは、当事者である子どもたちの声である企画立案を真摯に受け止め、子どもと向き合い、話し合いを重ねながら、「言葉にならない自分」を言語化できるようサポートしています。不登校や引きこもりの子どもたちを支援する団体と連携し、子ども若者編集部の年間計画の策定に関わってもらうなど、活動の広がりを目指しています。

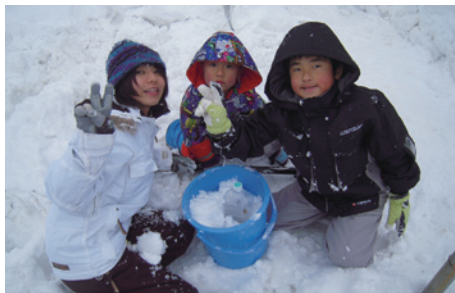
地域の素晴らしさをもっと知ってもらうために ～人・自然・なかまと育むゆたかな心～ 自然に触れ、地域と交流し 郷土愛を育む体験活動

●活動領域

家庭 学校 地域 企業

●3つのところ

自分に 他者に 社会に
向かうところ 向かうところ 向かうところ



地域の素晴らしさ体験
さまざまな体験プログラム
を通して、地域の豊かな自然
や伝統の文化を学び、地
域の人々と交流を深めてい
ます。

活動内容の紹介

地域の自然・文化を伝えるプログラム

山々に囲まれ、川が流れる豊かな自然や、人々により継承されてきた文化や技術など、地域の素晴らしさを子どもたちに伝えるために、さまざまな体験活動を行っています。週末に自然体験活動、夏休みにキャンプを実施するほか、平日の放課後は小学校で工作やゲームなど体験活動プログラムを実施し、子どもたちが安心できる居場所づくりを目指しています。地域の人々を講師やスタッフとして招き、地域に根ざした活動を行っています。

活動の広がりなど

子ども・学生・大人の世代間交流の場

活動の継続により学校や地域との連携が進み、放課後の体験活動実施は、魚沼市・南魚沼市計11の小学校に拡大しています。伝統技術のわら細工は地域の技術者が、お菓子作りは農協婦人部が講師として協力するなど、地域の人々が楽しみながら活動に参加しています。また、かつて参加した子どもたちが学生スタッフとして協力するなど、継続的な世代間交流が進んでいます。子どもたち自ら環境保全活動を始めるなど、子どもたちの地域や自然への意識が高まっています。

参加した皆さんの声

- 違う学校の新しい友だちができた。これからも友だちでいれたらなあと思う。(キャンプの感想より)
- うちの近くにいろんな植物があることがわかった。葉っぱのゲームが楽しかった。(自然観察の感想より)
- 言葉が少しむずかしかったけど、おもしろかった。帰ってばあちゃんに聞いた話のまねをして説明したらよろこんでいた。(昔語りの感想より)

3つの工夫

進める工夫・広げる工夫・続ける工夫

人口減少が進む山間地域において、子どもたちが将来暮らしたいと思うよう、地域づくりを進めると共に、さまざまな体験活動を実施しています。子どもたちと同様に地域のことを知らない親も多いため、親世代を対象とした情報発信やフォーラム開催を実施しています。学生スタッフなど指導者世代の参加・育成のしくみづくりを考えています。学校や地域と連携し、地域ならではの教育資源をいかした特色ある教育体系の構築を目指しています。

商店街の寺子屋 ～子どもが心豊かで健やかに育つ環境づくり～ 商店街を拠点に、 地域一体でつくる子どもの居場所

●活動領域

家庭 学校 地域 企業

●3つのところ

自分に 他者に 社会に
向かうところ 向かうところ 向かうところ



空き店舗を有効活用
商店街の空き店舗を拠
点に、学び・体験・交流・
遊びの場「商店街の寺
子屋」事業を行ってい
ます。

活動内容の紹介

空き店舗を放課後の活動拠点に

地域の商店街にあった表具店の寄贈をきっかけとして、地域の人々が運営委員会を立ち上げ、学び・体験・交流・遊びの場として「商店街の寺子屋」事業を行っています。「学び」として茶道や習字、「体験」として農業やお菓子作り、「交流」として合宿やイベント企画、「遊び」として昔遊びなど、多岐に渡るプログラムを実施しています。地域のボランティア団体や学生が参加し、子どもたちの放課後の安心・安全な活動拠点とすべく、活動しています。

活動の広がりなど

地域を巻き込む工夫で、進む連携

2011年度は、小学校2校から82名の子どもたちが参加し、学年・学校を超え交流を深めました。地域の人々・大学生などのほか、地域貢献活動の一環として地域の高校生が部活動単位で参加しており、子どもたちがさまざまな世代に触れ、豊かな人間性を育む場となっています。また、保護者の協力や地域行事への参加により、地域の連携にもつながっています。商店街という立地をいかしたプログラムづくりなど、次世代に続くさらに魅力ある活動を目指しています。

参加した皆さんの声

- 石に絵をはじめて描いて、最初はできるかなと思ったけど、上手にできてよかったです。
- いろんな友達と遊んだり、いろんな先生と遊んだりするのが楽しいです。特に、シャボン玉をして楽しかったです。
- いつも楽しいし、6年間ずーっと続けたいです。

3つの工夫

進める工夫・広げる工夫・続ける工夫

小学校全学年の子どもたちを受け入れ、学年・学校を超えた交流を促しています。地域のボランティア団体が運営に関わることで、地域の行事などへ積極的に参加すること、地域の高校にクラブ活動の一環として参画してもらうこと、保護者の参加機会を設けることなどの工夫から、地域に活動の輪が広がっています。地域の人材育成・発掘、地域住民同士の連携、地域と学校との連携にもつながり、活動の拡大と継続を可能にしています。

入院中の子どもたちに「こども時間」を届けるクリニックラウン（臨床道化師） 笑顔とふれあいを通して 入院中の子どもの成長をサポート

●活動領域

家庭 学校 地域 企業

●3つのところ

自分に 他者に 社会に
向かうところ 向かうところ 向かうところ



病室を訪問し、子どもや家族とふれあい
クリニックラウン（臨床道化師）が病棟を訪問し、子どもが
子どもらしく過ごせる時間を提供しています。

活動内容の紹介

遊びや対話により笑顔とこころを育む 病室訪問

闘病生活を送る子どもにクリニックラウン（臨床道化師）の笑顔とふれあいを届けることにより、子どもが子どもらしく過ごせる「子ども時間」を提供しています。病棟訪問では、クリニックラウン2名1組で一人ひとりの部屋を個別に訪問し、子どもや家族と一緒に遊んだり対話したりします。そして、子どもの成長や発達をサポートする視点から、医療スタッフや家族と連携し、子どもの療育環境の向上を目指し活動を続けています。

参加した皆さんの声

- またきてくれるの？
- きてくれてうれしい。
- 子どもが病院では今まで見たことのなかったいきいきとした表情を見せていて、その姿に元気をもらいました。（保護者）
- 子どもたちを見る鋭い観察眼に驚かされます。子どものサインに気付かせてもらうこともあります。（医療関係者）

活動の広がりなど

年間約10,000 人の子どもたちとのふれあい

オランダ発祥であるクリニックラウンの、日本における派遣・養成・認定を行う唯一の機関として、2011 年度は全国21ヶ所の医療施設へ年間約288 回定期訪問し、約10,000 人の子どもたちに「子ども時間」を届けています。クリニックラウンは、その豊かな発想力や表現力を通して、子どもたちに驚きや喜びなどの感情表出や自己表現する機会をつくっています。6 年間の活動により、医療現場においてクリニックラウンの役割が理解され、その具体的な効果に関心が注がれています。

3つの工夫

進める工夫・広げる工夫・続ける工夫

病棟訪問に際しては、子どもたちの成長面での課題や対人的な傾向、親子関係の様子などについて、医療スタッフと打ち合わせを事前に行います。訪問後にも会議を行い、子どもたちの変化や様子を伝え、子どもたちの成長や発達という視点で話し合い、医療スタッフと連携しながら子どもたちの生活の質の向上をサポートしています。またクリニックラウンへの理解と支援を広げるために、活動内容や大切にしている視点について伝えるパンフレットの作成や講演会・フォーラムを開催するなど、工夫を図っています。

山里海の四季、生活・産業を体験しよう 農林漁業体験を通して 交流と食育の場を提供

●活動領域

家庭 学校 地域 企業

●3つのところ

自分に 他者に 社会に
向かうところ 向かうところ 向かうところ



農林漁業体験や海洋調査、調理実習も
四季折々の自然の中で農林漁業などを体験する、数日間の田舎体験プロジェクトを実施しています。

活動内容の紹介

自然の中で本物の食を知る田舎体験

農林漁業の生産現場から離れて生活している現代の子どもたちとその保護者に、食育の場を提供するために、自然の中で農林漁業を体験し、そこで産み出された豊かな農林水産物を食べる、田舎体験プロジェクトを実施しています。春・夏・秋・冬に3泊4日または2泊3日の田舎体験を実施し、農林漁業体験や海洋調査、調理実習など多彩なプログラムを行っています。受け入れ地域の高校・大学生ボランティアが活躍しており、学生と子どもたちの学び合いの場ともなっています。

参加した皆さんの声

- 全部、ぜんぶ、楽しかった！また行きたーい！
- 帰ってからずっと愛媛の話。方言も覚えて帰ってきました。地元の小学生とお友達になれたこともうれしかったようです。（保護者）
- 子どもの頃からの作業の大切さを実感。この度の体験を親子で共有し、日常でできることを考えるきっかけになりました。（保護者）

活動の広がりなど

参加者と地域の交流の場にも

参加した子どもたちは、日常とはまったく異なる田舎生活を体験し、豊かな学びを得て、数日間で保護者が驚くほどの成長を遂げています。都市圏の子どもたちを対象に始めた活動が、都市圏と同様に生産現場離れが進む地方都市へ広がり、参加者が拡大しています。都市圏と地方都市から参加する子どもたちと、受け入れ地域の子どもたちの交流も芽生えてきています。地域や学校と連携し、人と経済が循環する仕組みづくりなど、地域の活性化も視野に活動を広げています。

3つの工夫

進める工夫・広げる工夫・続ける工夫

地域の学校や団体、旅行社やNPO と連携し、プログラムの充実と活動の拡大・継続を図っています。小学校などに参加募集を案内するほか、インターネットを活用し、認知を広げています。子どもたちの安全を保障し、専門的な技術や知識を伝えるために、農林水産業などを学ぶ高校・大学生をボランティアスタッフとして配置しています。過疎・高齢化が進む地域に残されている豊かな自然を生かし、子どもたちの自然を愛する豊かな心を育てています。

地域のお産は地域が守る！地域のボランティアが活躍するお産施設

安心なお産を支え、地域をつなぐ 3者協働の取り組み

●活動領域

家庭 学校 地域 企業

●3つのところ

自分に 他者に 社会に
向かうところ 向かうところ 向かうところ



安心なお産をサポート
ボランティア・バースセン
ター・病院が協力し、地域でお
産をサポート。子どもたちもボ
ランティアとして参加してい
ます。

活動内容の紹介

地域ボランティアが母親をサポート

安心してお産できる環境づくりと、出産や育児を通して住民が連携できる地域づくりを目指し、地域ボランティア・バースセンター（助産院）・病院の3者が協力し合い「地域のお産は地域が守る！」仕組みづくりを進めています。リスクに応じてお産をバースセンターと病院に振り分け、両者がカルテを共有することで、緊急の場合に備えています。バースセンターのお産では、地域のボランティアが産前産後を通して母親と助産師をサポートしています。

活動の広がりなど

画期的な取り組みで県外に広がり

バースセンターには産後の母親も気軽に集い、地域の子育て支援の場としても機能しています。ボランティアのバースサポーターとして小学生も参加しており、少子化が進む中で赤ちゃんを見る機会がない子どもたちに、出産や育児に触れ、命の尊さを学ぶ場を提供しています。活動は、3者協働の画期的な取り組みとして高く評価されており、ボランティアも活気を得ています。すでに、お産施設がない宮崎県内の地域で、新たなバースセンター設立に向けての住民活動が始まっています。

参加した皆さんの声

- 一人っ子なので、赤ちゃんを抱っこできてうれしかったです。(小学生女子)
- 赤ちゃんからここまで育ててくれたお母さんに感謝したい。(中学生女子)
- 60兆分の一の確率で妊娠し、生まれてきたことにびっくりした。命を大切にしようと思いました。(中学生男子)

3つの工夫

進める工夫・広げる工夫・続ける工夫

行政やメディアを通じての広報活動や、国内外の医療機関や大学などから視察を受け入れることで、近隣市への広がりや、全国各地へのシステム普及を目指しています。地域の中学校や大学の依頼を受け、「命の授業」などの講演を実施しています。地域の子どもたちが将来安心して出産や育児に臨めるよう、交通費や食事代をサポートする有償ボランティアとして受け入れ、出産だけでなく産後の育児も見て学べる場を提供しています。

世界に一つだけのバリアフリーな工作キットで子どもたちのこころを育てる活動
～幼児期から楽しく学べるユニバーサル教材の開発とワークショップ開催～

教材やワークショップを通して 親子で心の大切さを伝える活動

●活動領域

家庭 学校 地域 企業

●3つのところ

自分に 他者に 社会に
向かうところ 向かうところ 向かうところ



オリジナルの教材を開発
親子で学校などに出向き、オリ
ジナルの「バリアフリーおも
ちゃ」を製作するワークショッ
プを実施しています。

活動内容の紹介

「心のバリアフリー」を伝えるために

車いすの工作キットなど、子どもが手作りでできる「バリアフリーおもちゃ」を開発しています。親子で小・中・高校、福祉・医療系専門学校、大学、企業、地域などへ出向き、おもちゃを製作するワークショップやお話会、人権学習を実施し、子どもから大人まで幅広い世代に「心のバリアフリー」を伝えています。いじめがない社会、障がいの有無に関わらず誰もが幸せに生きていける社会づくりを目指し、親子で活動が続けています。

活動の広がりなど

遊びながら学ぶ、心の大切さ

工作キットでオリジナルの車いすやお人形を作るワークショップを通して、子どもたちは楽しく遊びながら「みんなに大切な心があること」「みんなちがってみんないいということ」「いろいろな人がいること」など、環境・福祉・人権について自然に学ぶことができます。車いすの工作キットは、学校の授業でも用いられ、日本と世界で約3,000セットが使用されています。車いすやベビーカーでも楽しめるバリアフリーコンサート主催するなど（不定期）、活動を広げています。

参加した皆さんの声

- 始まって10分もたたないのに感動して泣きそうになりました。きっと矢野さんの愛情が大きくてすごく伝わってきたからだと思います。(高校生)
- 特別支援教育は、温かいものだと感じました。障がいを特別視するのではなく、障がいの一つの個性として大切にできる教師になりたいです。(大学生)

3つの工夫

進める工夫・広げる工夫・続ける工夫

「心のバリアフリー」を伝えるために、試行錯誤をくり返しなが、バリアフリーおもちゃなどを開発しています。車いすの工作キットは、自由に色や絵を描いて組み立てることで特別視されがちな車いすを身近に感じ、また最後にハート形のパーツをのせることで、車いすには大切な心が乗っていると学ぶことができます。親子での地道な活動の継続と、主催するバリアフリーコンサート、またインターネットなどを通して、活動の認知を広げています。

絵本で拓く道徳授業～映像資料を用いて、学年道徳～

絵本を題材にした映像資料で
心に届ける道徳授業

●活動領域

家庭 学校 地域 企業

●3つのところ

自分に 他者に 社会に
向かうところ 向かうところ 向かうところ

学年全体で参加する道徳の授業を実施
月に一度の学年道徳の授業で、絵本や昔
話を題材にした教材を用いて、自分と他
者について深く考える機会を提供して
います。

活動内容の紹介

自己・他者を考えさせる学年道徳

中学校の研究主任として、生徒たちの「豊かな心を育む」ことを目指し、月に一度、学年全体で参加する学年道徳の授業を実施しています。子どもたちの実態をふまえてテーマを設定し、テーマにふさわしい絵本や昔話を題材に、視覚と朗読で訴える教材づくりに取り組んでいます。グローバルな視点を持つこと、自分の生き方を深く見つめることが難しい子どもたちに、自分の在り方・生き方を見つめ、他者との関わりを考える機会を提供しています。

参加した皆さんの声

- 自分の心を平和にするために……こんなテーマ初めて考えました。
- 思いやりがある人は、世界を愛することができます。お互いを尊重しあうことが大切だと思います。

活動の広がりなど

交流により育まれる思いやりの心

優れた図書の言葉に触れながら、友達のことを知り、自分と対話する授業は、子どもたちの心に届き、自己や他者について深く考え視野を広げる機会となっています。行動面からも、他者に対する思いやりや、人の話に耳を傾ける姿勢に良い変化が見られます。また、読書離れが進む子どもたちが、読書に取り組むきっかけともなっています。月に一度、学年全体で道徳の授業を共有することで、学年としての一体感を深めることにもつながっています。

3つの工夫

進める工夫・広げる工夫・続ける工夫

親しみやすい絵本や心を動かす図書の中から言葉を選び、映像により視覚に訴えながら、朗読や発問をし、考えを交流したり、作文ノートに書かせたりする授業を通して、自分の在り方・生き方を見つめ、他者との関わりを考える機会を提供しています。新学年が始まる4月は「自分づくり」、8月は「平和を考える」など、学校行事や学年委員会の取り組みともつながるよう、テーマを設定しています。映像資料を配布可能なデータにすることで、活動の広がりを目指しています。

子どもたちの「こころを育む活動」

2010年度受賞者
この一年(2011年)の
活動報告

- 2009年度受賞者一覧
- 2008年度受賞者一覧

子どもたちの「こころを育む」活動を支援する全国運動は、

2008年度よりスタートし、以来第四回である2011年度までに、計62の団体・個人の方々による優れた活動が表彰されました。

受賞された方々の多くは、さらに活動の輪を広げたり、新たな領域に踏み出したりと、「こころを育む」活動を続けています。

ここに、第三回である2010年度受賞団体・個人の方々の

受賞対象となった活動および受賞後の活動をご紹介しますと共に、

2009年度・2008年度受賞団体・個人の方々をあらためてご紹介いたします。



2010年度 全国大賞

特定非営利活動法人オバパト隊（熊本県）

高齢女性 パトロール隊による、 安心安全な子育て 環境づくり

オバパト隊（オバタリアンパトロール）
～守るつもりが守られて～

「オバパト隊」は、平均年齢75歳の女性129名によるパトロール隊です。子どもを育てるための安心安全な環境を作り次世代に引き継ぐこと、食育を通して子どもや高齢者の心と体を元気にすること、地域のつながりが希薄化した現代に「向こう三軒両隣り」の豊かな心を取り戻すことなどを目指し、見守りパトロールをはじめとしたさまざまな活動を展開しています。小中学校・教育委員会・警察・行政・防犯協会などと連携し、地域に活動の輪を大きく広げています。

地域での確かな成果を受け、活動を全国へ

活動を通して住民の交流が深まり、地域での問題行動や犯罪が減少して子どもが犯罪に巻き込まれる件数も減少しました。こうした活動の充実や成果に、隊員たちも満足感や癒しを得て「守るつもりが守られて」います。若い世代への活動引き継ぎや全国への広がりを目指し、講演などを通して活動を呼びかけています。



毎日昼夜、校区の見守りパトロールを行い、子どもと高齢者へ声かけを行っています。



活動の意義と楽しさを伝え、全国に広めるために、行政機関などを対象とした講演を行っています。



2011年の活動



昔の着物を現代の洋服にリメイク創作。活動費の確保にもつながっています。

生きる目標を共有する
「シイパラダイス大作戦」

「楽しい」「美味しい」「なつかしい」など、「シイ」がつく感動の言葉を共有する取り組みです。「楽しい」「なつかしい」着物のリメイクや、子どもと高齢者が食育を学ぶ「美味しい」試食会などを実施しています。



美味しい食で、子どもや高齢者の心と体を健康にする食育研修会。

身近な問題について学び、行動する環境活動

ゴミ、水、食品など、身近な問題について毎月研修会を開催しながら、環境活動に取り組んでいます。土作りから植樹まで行っている「花と香りのふれ合い公園」も完成予定です。

高齢者同士が助け合う
「シルバー＆シルバーサポート」

一人暮らしの人など地域の高齢者をサポートするために、高齢者同士が情報を分かち合い、交流できる環境づくりを目指し、見守りや声かけを行っています。

3つの工夫

進める工夫

「未来の社会を託す大事な宝である、生まれてきた子どもを守りたい」という思いを共有しながら、129名の隊員が協力して活動を展開しています。毎月勉強会を開催し、目的意識の共有や活動内容の向上を図っています。

広げる工夫

地域のさまざまな団体と連携し、活動の輪を広げています。活動の意義と楽しさを伝えるための講演を全国に出向いて行っています。「わんわんパトロール隊」を結成するなど、若い世代にもネットワークを広げる工夫を図っています。

続ける工夫

「力まず気負わず無理をせず」をテーマに、活動の継続を目指しています。自由な活動を継続して行うために、助成金などに頼らず、隊員らが着物をリメイクして服を制作・販売することで、活動費をまかなっています。

●所在地：〒892-0913 熊本県熊本市尾ノ上1-39-15 ●TEL：096-381-2447
●E-mail：skt@purple.plala.or.jp ●HP：http://www10.plala.or.jp/obapato/ ●代表：（担当者）：下川 邦子

ブロック大賞（北海道・東北ブロック）

酒田市立飛鳥中学校（山形県）

郷土愛を育む、地域ブランド商品づくり

地域の特産物を生かした「飛鳥ブランド商品」の開発と販売学習 ～地域商工会とのコラボレーションを通して～

生徒たちが、地域の特産物を生かした「飛鳥ブランド商品」を考案し、地域商工会の支援を受けながら商品化し、販売までを行っています。生徒たちは、地域に数多くの素晴らしい特産品があることを知り、それが生み出され、受け継がれた歴史や地域性、それを守り伝えてきた人々の苦勞と工夫を学ぶことで、郷土愛と感謝の気持ちを育んでいます。

2011年の活動

新たに「飛鳥ブランド」4商品を開発・販売

活動3年目となる2011年度は、4種類の「飛鳥ブランド商品」を開発し、販売しました。地域の協力を得て、紅花など材料の生産・収穫から体験するなど、生産者の思いや素材の良さをさらに深く学びました。交流校である東京の私立田園調布学園の文化祭のほか、市の商工観光部が主催する「パイさかた市」に参加し、生徒たちが商品を販売しました。



新たに4種類の「飛鳥ブランド商品」を開発し、販売しました。（写真は2010年度）

●所在地：〒999-6711 山形県酒田市飛鳥字堂之後30 ●TEL：0234-52-2042 ●E-mail：asuka@sakata.ed.jp
●HP：http://http://www.sakata.ed.jp/asuka/web/ ●代表者：渡部 俊明 担当者：山岸 夕佳

ブロック大賞（関東ブロック）

鴻巣市立鴻巣南小学校（埼玉県）

学校の教育活動全体を通じた道徳教育

「豊かな心を育む」特色ある教育活動の実践 ～学校・家庭・地域とのたしかな結びつきを通じて～

「規律ある生活を基盤に、人とかかわりを学び、伝え合い、絆を深める学校づくり」をテーマとして、特色ある教育活動を実践しています。母校に誇りを持ち、地域・郷土を支え、発展させていく子どもたちを育てるために、「人とかかわる力をはぐくみ、ふるさとに学び、ふるさとを創る特色ある学校づくり」という大テーマを目指し、活動を推進しています。

2011年の活動

道徳教育充実のため、新たな活動を展開

さらなる道徳教育充実のため、保護者を対象とした道徳一斉公開授業と、子どもたちを対象とした道徳教育講演会を、「生命尊重」という統一テーマのもとで実施しました。保護者と地域住民からなる「おやじの会」による「春を探そうハイキング・土手すべり体験」や、学校の体育館に宿泊するサマーキャンプなど、さまざまな体験活動も行いました。



「おやじの会」第3回活動として、120人の子もたちと土手すべり体験を行いました。

●所在地：〒365-0037 埼玉県鴻巣市本町8-7-23 ●TEL：048-541-1107 ●E-mail：kominami-e@city.konosu.ed.jp
●HP：http://senseiminami.lolipop.jp/senseiminami/ ●代表者：橋本 雄一 担当者：竹越 照夫

ブロック大賞（中部ブロック）

特定非営利活動法人 ポレポレ（静岡県）

親子体験事業で、子育て環境の充実を

地域 みんなでここに子育て子育て

妊婦、乳幼児、小学生とその親、家族、および青少年に対して、遊びの場や情報を提供することにより、子どもの発達と親の育児力形成を支援しています。あらゆる世代の「みんなでここに子育て子育て」をテーマに、子どもや親子で参加できる体験教室などさまざまなプログラムを行い、子どもと親が暮らし地域全体の福祉向上を目指しています。

2011年の活動

東日本大震災の被災地支援活動を実施

「こころを育む総合フォーラム」の副賞を使用して、被災地支援活動を行いました。メールなどで会員に協力を呼びかけ、物資の収集や梱包を行い、毛布や野菜を被災地へ届けました。また、家族で参加する工作体験「かくかくベタベタ」や家族で参加するバス遠足などの体験活動をはじめ、さまざまな子育て支援活動を実施しました。



子どもたちが収集を手伝い、200枚ほどの毛布を集め被災地へ届けました。

●所在地：〒431-0303 静岡県湖西市新居町浜名1063 ●TEL：080-6970-0005 ●E-mail：his@yr.tnc.ne.jp
●HP：http://pore2.net ●代表者：柴田 摂美 担当者：神谷 尚世

ブロック大賞（近畿ブロック）

播磨マリンクルー（兵庫県）

地域の自然と生き物に触れる体験学習

播磨マリンクルー出前授業及び底引き網漁体験学習

地域の小学校などを対象に、出前授業と「底引き網漁体験学習」を行っています。出前授業では、海の生物に触れることができる「出前水族館」などの体験プログラムを実施しています。「底引き網漁体験学習」は、漁船に乗り海と海の生物に触れる自然体験プログラムです。子どもたちに生物や自然を体感する場を提供し、自然と命の大切さを伝えています。

2011年の活動

より充実したプログラムで出前授業を実施

小学校、幼稚園、保育園、子育てグループなどの要請に応じて、出前授業を実施。活動メンバーの増加により、「出前水族館」・音遊び・切り絵などのプログラムに、腹話術が加わりました。「底引き網漁体験学習」では、料理家が協力し、料理教室や試食会も行いました。学生ボランティアや漁協組合などとの連携により、活動の継続と拡大を目指しています。



「底引き網漁体験学習」では、料理家が協力し、料理教室や試食も行いました。

● 所在地：〒676-0021 兵庫県高砂市荒井町中新町 8-13 ● TEL：079-443-7263 ● E-mail：Kid09701@bb.banban.jp
● 代表者：吉政 静夫 担当者：吉政 雅美

ブロック大賞（中国・四国ブロック）

特定非営利活動法人おかやま犯罪被害者サポート・ファミリーズ（岡山県）

犯罪被害者遺族が語る「命の授業」

命の授業プロジェクト～犯罪被害者遺族による心と命の教育活動

犯罪被害者遺族が「同じ体験をしてほしくない」という思いから、学校などに出向き、子どもや保護者を対象に「命の授業」を行っています。授業では、子どもを育てる親の思いや、家族や友達の悲しみなどを丁寧に語ることで、命を大切にしてほしいというメッセージを伝えています。県警・教育委員会・県との4者協働事業として講演先を広げています。

2011年の活動

各地の小中高校、大学などで授業を実施

年間計44校の小中高校、大学へ出向き、「命の授業」を行いました。女子少年院や佐賀県の中学校の教育講演会をはじめ、県外各地にも出向いています。「子どもたちの心に蒔いた種に水をやり、育てていくのは家族や地域の大人たち」という思いから、地域団体や教職員研修会への講演など、地域の大人を対象とした講演活動の拡大を目指しています。



小中高校、大学のほか、女子少年院など各地に出向き講演活動を行っています。

● 所在地：〒700-0816 岡山県岡山市北区富田町 1-6-10 東光第一ビル 2 階 ● TEL：086-226-7744
● E-mail：m-kawasaki@poem.ocn.ne.jp ● HP：http://www17.ocn.ne.jp/~families ● 代表者（担当者）：川崎 政宏

広がる交流の輪

2008年にスタートした、子どもたちの「こころを育む」活動を支援する全国運動は、2011年度で4年目を迎えました。優れた活動として、のべ62の団体・個人の方々が表彰されています。シンポジウムで実施した受賞者交流会などをきっかけに、受賞者の方々に交流が生まれ、「こころを育む」活動の輪が全国に広がっています。



今までに受賞された方々の意見交換や交流の場となっている受賞者交流会。

奨励賞（北海道・東北ブロック）

社団法人 札幌青年会議所（北海道）

近所に泊まろう！地域ホームステイ「子どもたちにたくましく豊かな心を！」

～地域と共に築こう。明るい豊かな札幌の創造！～

地域の大人が仮親となり、子どもたちが二泊三日のホームステイを体験する「近所に泊まろう！地域ホームステイ」事業を立ち上げました。2011年度は、PTAが主体となり10月に実施。市民主導の事業として継続を目指し、サポートを続けています。東日本大震災以後は、被災地への人的支援・被災者受入の計画および実施の主導など、被災支援活動を率先的にを行いました。

■ 所在地：〒060-0001 北海道札幌市中央区北1条西2 北海道経済センター 9 階
■ TEL：011-222-1439 ■ E-mail：info@sapporo-jc.or.jp
■ HP：http://www.sapporo-jc.or.jp/ ■ 代表者：林 将告/担当者：佐藤 直也

奨励賞（関東ブロック）

台東区立黒門小学校 育ての会（東京都）

地域を愛し、地域に根ざした「東京さんさ黒門連」の活動

保護者や地域の人たちが子どもたちに「さんさ」を指導し、一緒に太鼓や踊りを楽しんでいます。地域の「うえの夏祭りパレード」での演技披露を目指して、週2回、学校を活動場所として練習を続けています。2011年度は、「うえの夏祭りパレード」のほか、2月に行われた「東京マラソン」など、地域のさまざまなイベントでも演技を披露しています。

■ 所在地：〒110-0005 東京都台東区上野 1-16-20 台東区立黒門小学校内
■ TEL：03-3831-6039 ■ HP：http://www.taitocity/kuromon-es/
■ 代表者：富坂 伸吾/担当者：石田 隆

奨励賞（近畿ブロック）

特定非営利活動法人
おはなしキャラバン“つばさ”（大阪府）

人形劇のキャラバン公演

幼稚園や保育所、福祉施設などへ出向いて、人形劇を主とした公演を行っています。子どもたちに問いかけ対話しながら作る参加型の舞台を通して、子どもたちの豊かな感性と自由な心を育むことを目指しています。2011年度は、「アラジン」や「はらぺこ坊やホップくん」などの新演目を制作し、上演。公演先を全国に広げ、活動を続けています。

■ 所在地：〒595-0024 大阪府泉大津市池浦町 3-11-8
■ TEL：0725-32-6731 ■ E-mail：tsubasa@gem-hi-ho.ne.jp
■ HP：http://www.gem-hi-ho.ne.jp/tsubasa/ ■ 代表者（担当者）：立花 由美子

個人の部 個人賞

小林 秀子（埼玉県）

絵本の編んでるシアター館

絵本に登場する動物などを毛糸で編み、それらを使った絵本の読み聞かせを行っています。保育所や病院などを訪問したり、自宅「編んでるシアター館」でも活動しています。2011年度は、東日本大震災以後、子どもたちの心が絵本により安らぐことを願い、被災地での読み聞かせを実施。運搬や設営の手軽さをいかし、被災地を訪問する活動を続けています。

■ TEL：048-688-2882
■ HP：http://www.anderutheater.jp/

奨励賞（関東ブロック）

りぷりんとネットワーク（東京都）

シニア読み聞かせボランティア「りぷりんとネットワーク」

東京都中央区、杉並区、神奈川県川崎市、滋賀県長浜市の4か所で、シニアボランティアによる子どもたちへの絵本の読み聞かせを通して、高齢者による地域貢献、仲間作り、そして健康増進を目標に活動を継続しています。2011年度も、情報交換や技術向上のための勉強会を実施するなど、仲間同士で支え合いながら、質のよい活動を心掛けています。

■ 所在地：〒120-0021 東京都足立区日ノ出町 27-1-706 ■ TEL：03-3882-0244
■ E-mail：nonaka@tmig.or.jp（代理）
■ HP：http://www2.tmig.or.jp/healthpromotion/reprints/about.html
■ 代表者：（担当者）：山田 源次

奨励賞（関東ブロック）

任意団体病院プロジェクトALIVE（神奈川県）

MUSIC & COMMUNICATION PROJECT

NPO 法人じぶん未来クラブが招聘するアメリカの非営利団体The Young Americans によるOutreach workshop を、病気や障がいのある子どもたちを対象に実施しています。2011年度、エコキャンドルを製作する環境教育ワークショップを開催。子どもたちや家族、支える人たちに「病気や障がいを忘れられる、笑顔となる瞬間」を創造することを目的に、開かれた病院づくりに繋がる活動をしています。

■ 所在地：〒158-0081 東京都世田谷区深沢 2-12-1-213
■ TEL：03-6432-1855 ■ E-mail：toiawase@hospitalprojectalive.org
■ HP：http://www.hospitalprojectalive.org/hp/ ■ 代表者（担当者）：北野 華子

奨励賞（九州・沖縄ブロック）

佐賀市立北川副公民館運営協議会（佐賀県）

子どもへのまなざし運動推進事業

校区・町区における地域行事等に子どもたちを積極的に参加させ、異世代間の交流を通して「地域性・市民性」を育むことを目指し、さまざまな取り組みを行っています。2011年度は、近隣校区の小学校2校にもまなざし運動が拡大し、「大人全体で子どもたちを育む」地域の輪が広がっています。さらに、市の事業との連携など、活動が進展しています。

■ 所在地：〒840-0015 佐賀県佐賀市木原 3-12-8
■ TEL：0952-23-3086 ■ E-mail：kitakawa@po.bunbun.ne.jp
■ 代表者：福田 繁文 担当者：田中正幸

個人の部 奨励賞

村田 トオル（兵庫県）

地域の公園を活かした外遊びサークル「元気っずクラブ」の活動

年長児から小学生を対象とした運動遊びサークル「元気っずクラブ」を開設し、単なる遊びにとどまらず、運動効果上がる内容を取り入れたさまざまな運動プログラムを実施しました。2011年度は、多数の講演依頼を受け、子育てについて広く発信。活動実績により、短期大学の准教授として専任教員になり、保育者の養成に携わっています。

■ TEL：0797-61-3624 ■ E-mail：runner-murata@hcc1.bai.ne.jp
■ HP：http://blogs.yahoo.co.jp/run4950

2009 年度受賞者一覧

■全国大賞

山形県立置賜農業高等学校 演劇部 (山形県)

活動テーマ：食育ミュージカルによる 豊かなこころを育む運動
所在地：〒 999-0121 山形県東置賜郡川西町大字上小松 3723
TEL：0238-42-2101
HP：http：//www.okitama-ah.ed.jp/
担当者：成澤 久美

■ブロック大賞 (関東ブロック)

特定非営利活動法人 湘南DVサポートセンター (神奈川県)

活動テーマ：いじめ防止プログラム「スクール・パティ」
所在地：〒 251-0044 神奈川県藤沢市辻堂太平台 2-2-3-102
TEL：090-4430-1836
E-mail：tryton@kodomo-support.org
HP：http：//www.kodomo-support.org
代表者：瀧田 信之/担当者：渡邊 千尋

■ブロック大賞 (中部ブロック)

特定非営利活動法人 福寿草の郷 (石川県)

活動テーマ：おたがいを知ろう…自然体験を通したふれあい交流
所在地：〒 922-0100 石川県加賀市山中温泉西住町二 25-1
TEL：0761-76-1991
E-mail：fj_sato@bridge.ocn.ne.jp
HP：http：//www16.ocn.ne.jp/~fjs/index.html
代表者：高橋 竹夫/担当者：高橋 美子

■ブロック大賞 (近畿ブロック)

大阪府立豊中支援学校 D・D・D・クラブ (ドラム、大好き、大集合) (大阪府)

活動テーマ：歌って、踊って、ドラムでハッピー！
所在地：〒 560-0001 大阪府豊中市北緑丘 2-7-1 大阪府立豊中支援学校内
TEL：06-6840-1801 ～2
E-mail：Toyonaka-y@sbox.osaka-c.ed.jp
HP：http：//www.osaka-c.ed.jp/toyonaka-y/
D.D.D. クラブ HP：http：//web.me.com/masaso/dddclub/
代表者 (担当者)：園田 葉子

■ブロック大賞 (中国・四国ブロック)

城北公民館 (島根県)

活動テーマ：じゃがいも大作戦
所在地：〒 690-0888 島根県松江市北堀町 43
TEL：0852-26-4437
E-mail：jyohokuk@mable.ne.jp

■ブロック大賞 (九州・沖縄ブロック)

児童劇団つばさ (福岡県)

活動テーマ：平和・環境・社会問題をテーマとする地域活動とミュージカルの公演
所在地：〒 838-0112 福岡県小都市小郡 1317-1
TEL：090-2504-1741
HP：http：//kurotsuchi.ogori.org/
担当者：平山 久美子

■奨励賞 (北海道・東北ブロック)

●ハート&アート空間 “BE ㇫ ” (ビーアイ) (宮城県)

活動テーマ：目指せ！心キン尼克マン!! 心を育む継続的ワークショップ
所在地：〒 980-0822 宮城県仙台市青葉区立町 20-11 ミカミハウス 2F
TEL：022-262-2969
E-mail：zoukabako@gold.ocn.ne.jp
HP：http：//www12.ocn.ne.jp/~bei/ http：//1987bei.blog.shinobi.jp/
代表者：関口 怜子 担当者：清水 千佳

■奨励賞 (関東ブロック)

社団法人ガールスカウト日本連盟 (東京都) ※現在は、公益社団法人

活動テーマ：ピースバックプロジェクト
所在地：〒 151-0066 東京都渋谷区西原 1-40-3
TEL：03-3460-0701
E-mail：gsj@girlscout.or.jp
HP：http：//www.girlscout.or.jp
代表者：浅野 万里子 担当者：片岡 麻里

■奨励賞 (関東ブロック)

一般社団法人大丸有 (だいまるゆう) 環境共生型

まちづくり推進協会 (エコツツェリア協会) (東京都)

活動テーマ：エコキッズ探検隊 2009
所在地：〒 100-0005 東京都千代田区丸の内 1-5-1 新丸の内ビルディング 10 階
TEL：03-6266-9400
HP：http://ecozzeria.jp
代表者：井上 成 担当者：篠崎 隆一

■奨励賞 (中部ブロック)

はなまる地域探検隊 (長野県)

活動テーマ：どの子も育つ「頭で学ぶ・体で学ぶ・ここで学ぶ」
所在地：〒 396-8617 長野県伊那市伊那部 3050
TEL：0265-78-4111 (内線 2726)
代表者：田中 博文 担当者：伊藤 元郎

■奨励賞 (近畿ブロック)

三重県伊勢市立五十鈴中学校 (三重県)

活動テーマ：サスティナブル社会の実現をめざすための
シチズンシップや行動力を養うための学習
所在地：〒 516-0028 三重県伊勢市中村町 458
TEL：0596-22-3610 (伊勢市立小俣中学校)
E-mail：torazan@amigo2.ne.jp
担当者：西村 朱美 (小俣中学校)

■奨励賞 (中国・四国ブロック)

備前プレーパークの会 (岡山県)

活動テーマ：自然環境を最大限に生かした冒険遊び場づくりへの挑戦
～人と人とがつながり育ち合う 森の冒険ひみつ基地～
所在地：〒 705-0024 岡山県備前市久々井 1431-1
TEL：0869-64-4178
E-mail：bizen_playpark@yahoo.co.jp
HP：http：//bizenplaypark.blog66.fc2.com/
代表者 (担当者)：北口 ひろみ

■奨励賞 (九州・沖縄ブロック)

食から環境を考える未来 (みく) の会 (福岡県)

活動テーマ：● 子どもといっしょにエコプロジェクト (ごきげんごはんを作ろう)
所在地：〒 810-0022 福岡県福岡市中央区薬院 1-16-5 松井ビル 1002
TEL：092-711-2022
E-mail：mi2355ku@zc4.so-net.ne.jp
代表者：松井 久美子 担当者：篠原 貴美恵

■個人の部 個人賞

松浦 明博 (東京都)

活動テーマ：夜間定時制高校での「奉仕」の授業実践
TEL：080-3156-1445
E-mail：akihiro_matsuura320906@yahoo.co.jp

■個人の部 奨励賞

富樫 俊江 (東京都)

活動テーマ：「歌と遊びの会」による文化の伝承活動
TEL/FAX：042-735-4743
E-mail：yukisakura1026@yahoo.co.jp (協力者 宮本)

■個人の部 奨励賞

佐藤 重一郎 (京都府)

活動テーマ：自分史を語り日本人の心の遺産を伝える活動
TEL：0774-33-6117 (代理 080-3867-7967)
HP：http：//www.kokoronoisan.com/

2008 年度受賞者一覧

■全国大賞

社団法人 群馬県助産師会 (群馬県)

活動テーマ：助産師による「いのちの大切さを伝える」出前講座
所在地：〒 373-0018 群馬県太田市丸山町 250-7
TEL/FAX：0276-37-5198
E-mail：s.mide@jeans.ocn.ne.jp
代表者：鈴木 せい子

特別賞・ブロック大賞 (中国・四国ブロック)

特定非営利活動法人 森と海の学校 (山口県)

活動テーマ：「子ども自然体験キャンプ」「ジュニア洋上スクール」事業による
“ 親からの手紙 ” と青少年指導者の育成
所在地：〒 759-0206 山口県宇部市大字東須恵 1271-15
TEL：0836-41-5435 FAX：0836-44-4423
E-mail：seiji@okamura21.com
代表者：岡村 精二 担当者：岡村 里美

■ブロック大賞 (北海道・東北ブロック)

あじ島冒険楽校 (宮城県)

活動テーマ：「昔の子どもたち」から「未来の大人たち」へ「島の夏休み」を伝えたい
所在地：〒 986-2525 宮城県石巻市長渡浜姥婆 15
TEL：090-2609-0673
E-mail：marukin@mbj.nifty.com HP：http://plaza.rakuten.co.jp/ajisima
代表者：小野 勝吉 担当者：阿部 欽一郎

■ブロック大賞 (関東ブロック)

足立区立第十一中学校 開かれた学校づくり協議会 (東京都)

活動テーマ：花むすび
～「中学校を拠点とする “ 地域づくり ” “ 学校づくり
” “ こどもほめ育て ” の地域ぐるみの取り組み」～

所在地：〒 120-0013 東京都足立区弘道 1-38-15 足立区立第十一中学校内
TEL：03-3887-8191 FAX：03-3887-8192
E-mail：ichikawa0835@key.ocn.ne.jp
代表者：遠藤 光彦

■ブロック大賞 (中部ブロック)

少年少女合唱団マーレ (福井県)

活動テーマ：歌声体験交流活動
所在地：〒 914-0124 福井県敦賀市市野々 6-2-2 第二早翠幼稚園内
TEL：0770-21-0002 FAX：0770-21-0022
E-mail：mare@samidori.ed.jp HP：http://www.samidori.ed.jp/mare/index.html
代表者：赤谷 尚実 担当者：徳本 範子

■ブロック大賞 (近畿ブロック)

特定非営利活動法人 ふれあいネットひらかた (大阪府)

活動テーマ：商店街の空き店舗を活用し、食育をテーマとした小学生の居場所づ
くり「キッズ・キッチン」
所在地：〒 573-1144 大阪府枚方市牧野本町 2-19-2 長村ビル1階
TEL/FAX：072-397-2111
E-mail：yu715jp@yahoo.co.jp HP：http://www.shokuiku-station.com/
代表者 (担当者)：野村 由賀里

■ブロック大賞 (九州・沖縄ブロック)

KSVN 嘉瀬小学校ボランティアネットワーク (佐賀県)

活動テーマ：「どようひるば」
所在地：〒 840-0863 佐賀県佐賀市嘉瀬町大字十五 12-1 (佐賀市立嘉瀬小学
校内)
TEL：0952-23-6400 FAX：0952-23-6427
E-mail：skase@city.saga.lg.jp HP：http://www2.saga-ed.jp/school/
edq10107/
代表者：今泉 正喜 担当者：末次 貴浩、小池 充、永淵 薫

■奨励賞 (北海道・東北ブロック)

くしろゴールデンシアターきらり座 (北海道)

活動テーマ：キッズと高齢者のコラボ劇「おじいちゃんと話そうよ」
所在地：〒 085-0007 北海道釧路市堀川町 8-3 佐藤方 (事務局)
TEL/FAX：0154-24-7663
E-mail：sinnpou@purple.plala.or.jp
代表者：佐藤 伸邦 (事務局長) ※現在は「くしろ高齢者劇団」に名称変更。

■奨励賞 (関東ブロック)

越谷市立大沢小学校 (埼玉県)

活動テーマ：自分をみつめ、よりよく生きようとする児童の育成
所在地：〒 343-0025 埼玉県越谷市大沢 2-13-21
TEL：048-974-8522 FAX：048-974-8521
E-mail：koshi002@edu.city.koshigaya.saitama.jp
HP：http://school.city.koshigaya.saitama.jp/osawa-e
代表者：荒井一郎

■奨励賞 (中部ブロック)

特定非営利活動法人 リトミック Gifu (岐阜県)

活動テーマ：小学生の土曜日居場所づくり
「表現のワークショップ&ミュージカル」
所在地：〒 503-0808 岐阜県大垣市三塚町 501-1
TEL：0584-78-9598 FAX：0584-47-5052
E-mail：dezaki82@yahoo.co.jp HP：http://www.rito-gifu.net/
代表者 (担当者)：出崎 恭子

■奨励賞 (近畿ブロック)

公益財団法人 山本能楽堂 (大阪府)

活動テーマ：「アートによる能案内」と「能と遊ぼう!」
所在地：〒 540-0025 大阪府大阪市中央区徳井町 1-3-6
TEL：06-6943-9454 FAX：06-6942-5744
E-mail：info@noh-theater.com HP：http://www.noh-theater.com
代表者：山本 旭彦 担当者：山本 佳誌枝

■奨励賞 (中国・四国ブロック)

夢配達人プロジェクト神石高原町実行委員会 (広島県)

活動テーマ：神石高原町を舞台にした絵本が作りたい
所在地：〒 720-1522 広島県神石郡神石高原町油木甲 5071-1
TEL：0847-82-2003 FAX：0847-82-2004
E-mail：jk-syougaku@town.jinsekikogen.hiroshima.jp
代表者：小坂芙美 担当者：野村 俊英

■奨励賞 (九州・沖縄ブロック)

久米島ホテルの会 (沖縄県)

活動テーマ：ホテル舞い飛ぶ久米島の島づくり
所在地：〒 901-3123 沖縄県島尻郡久米島字大田420
TEL/FAX：098-896-7100 TEL：080-1740-1529
E-mail：kumehotaru@yahoo.co.jp HP：http://www.kumehotarunokai.com
代表者：宇江原 総清 担当者：佐藤 直美

■個人の部 個人賞

金杉 朋子 (東京都)

活動テーマ：アイデンティティ形成に向け、高校生が自己表現する
倫理の授業実践
～「かけがえなさを認め合う場」としてのクラスの可能性～
TEL/FAX：03-3721-4808
E-mail：kanasugiga@gmail.com

■個人の部 奨励賞

向井 哲朗 (鳥取県)

活動テーマ：「泳げる中海を取り戻す」
～身近に出来る水質浄化活動を機軸に、リサイクルの実践、
小さな環境活動を積み重ねる～
TEL/FAX：0859-29-3974
E-mail：hsmrs477@ybb.ne.jp

